

## 【平成24年度 地球温暖化に関する震災後の県民の意識・行動調査(概要)】

### 1 趣旨

地球温暖化に関する震災後の県民の意識・行動を把握

ナビ見直しの際に、施策間の優先順位を判断する材料として活用

### 2 調査の方法

- ①調査地域 埼玉県内6市(川越市、川口市、所沢市、加須市、本庄市、三郷市)
- ②調査対象 満20歳以上の男女個人
- ③標本数 3,000(上記6市から500ずつ)
- ④抽出方法 住民基本台帳による無作為抽出
- ⑤調査方法 郵送による書類調査
- ⑥調査時期 平成24年7～9月

### 3 回収結果

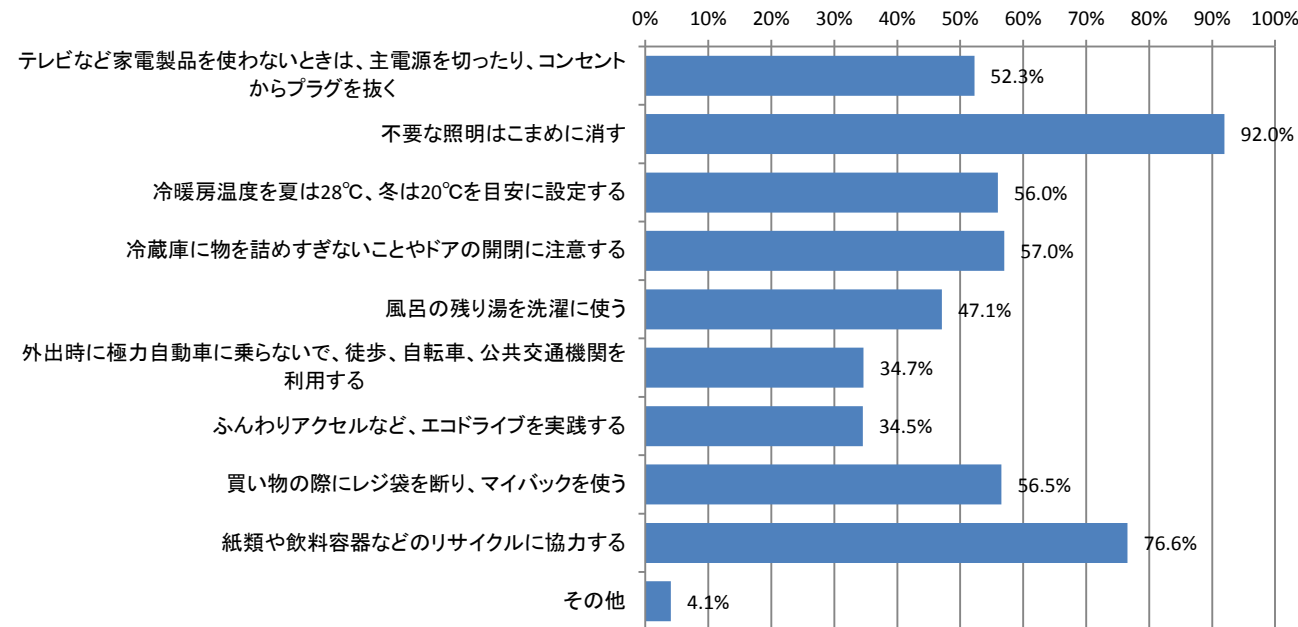
- ①標本数 3,000
- ②有効回収数 909
- ③調査不能数 2,091
- ④有効回収率 30.3%

### 4 主な質問項目

- ①省エネの取組状況、②LED照明の導入意向、③省エネ家電の導入意向、④高効率給湯器の導入意向、⑤建物の断熱化の意向、⑥グリーンエネルギー自動車の導入意向、⑦太陽光発電の導入意向、⑧エアコン買い換えタイミングの考え、⑨住宅の断熱化のタイミングの考え、⑩地球温暖化対策の考え、⑪省エネへの関心、⑫節電・省エネ意識の変化、⑬温暖化対策で取り組むべき対策の考え、⑭夜型生活の考え

### 【省エネの取組や省エネ型の製品・設備の利用状況等について〔①省エネ取組〕】

G1：省エネの取組について、現在取り組んでいるもの(複数回答) n=909



「不要な照明はこまめに消す」など日常的に気を遣えばできる項目が高かった。

◎県民調査の限界(郵送調査)

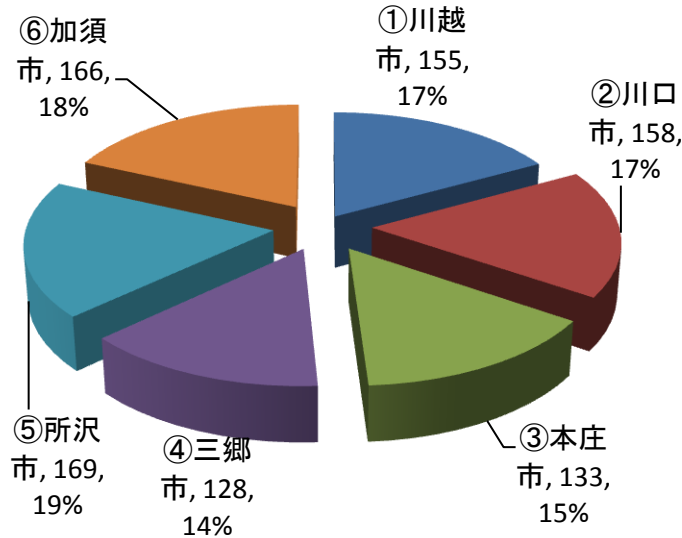
⇒①回収率：30.3% (標本抽出数3,000本に対し回収909本) と低かった。

②環境に関心を寄せた人以外に回答されていない可能性もある。

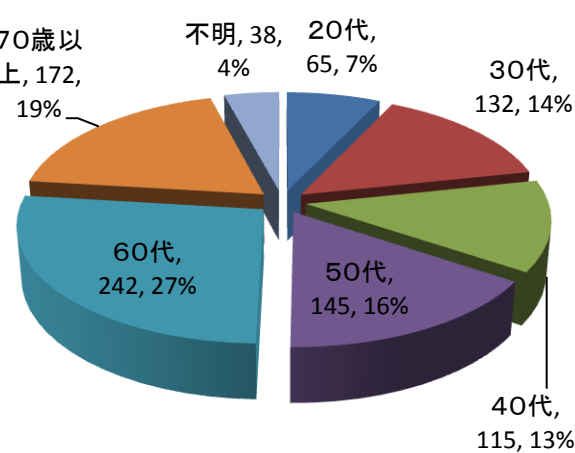
⇒同時期実施の「埼玉県政世論調査」(訪問調査:回収率:73.1%)の類似7設問の結果を比較  
⇒全体的に同じ傾向⇒信頼性はある。

ただし、県民調査の方が県政世論調査よりも若干高めの数値⇒割り引いて結果を見る必要

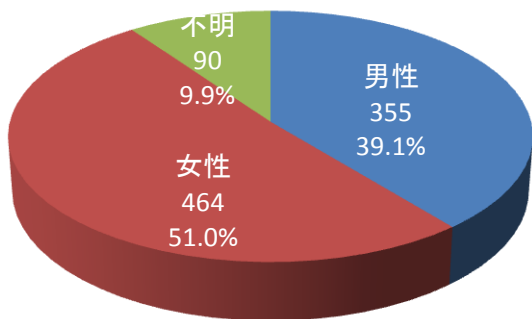
回答者の地域別内訳 n=909



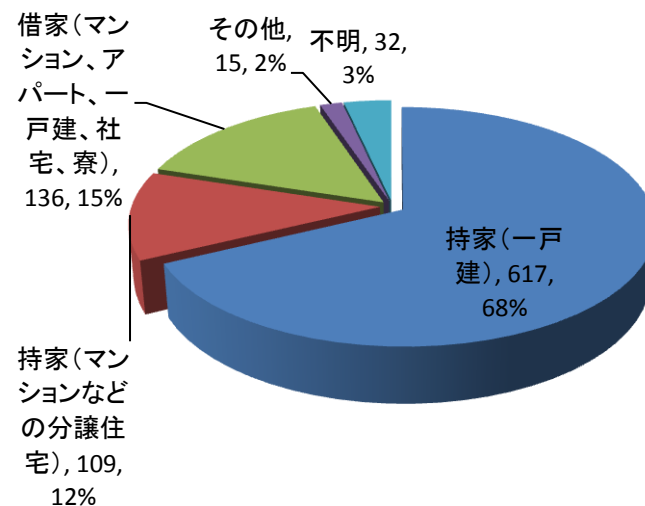
回答者の年代別内訳 n=909



回答者の性別内訳 n=909

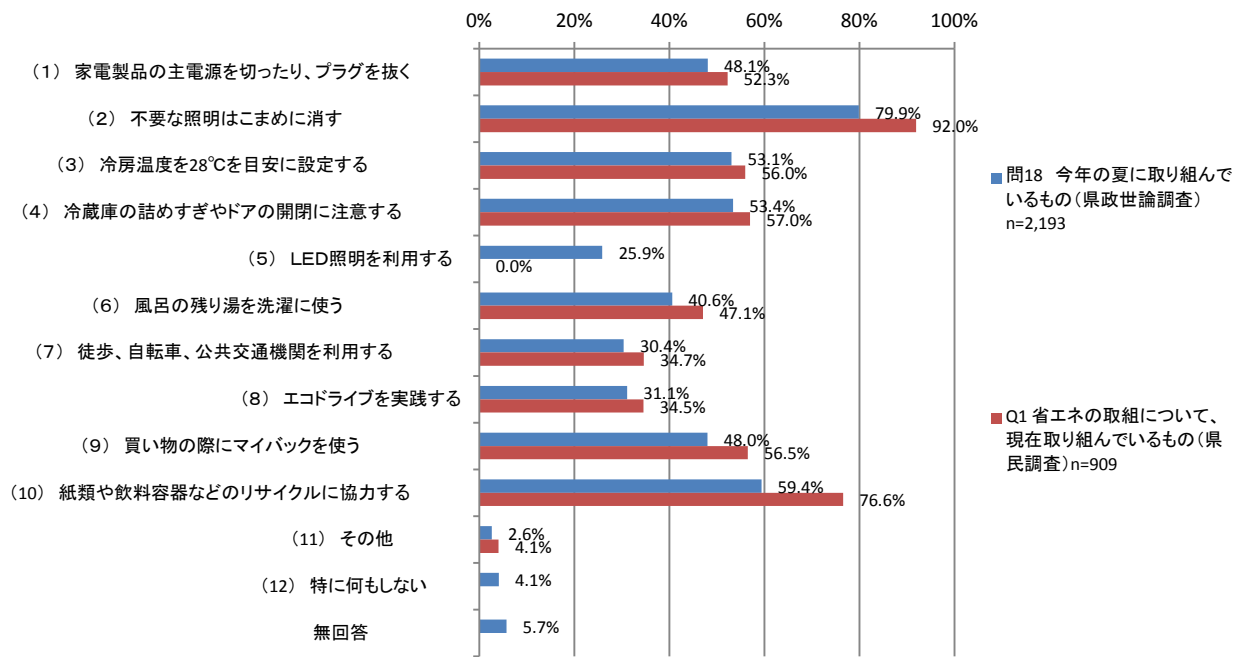


回答者の住まい別内訳 n=909

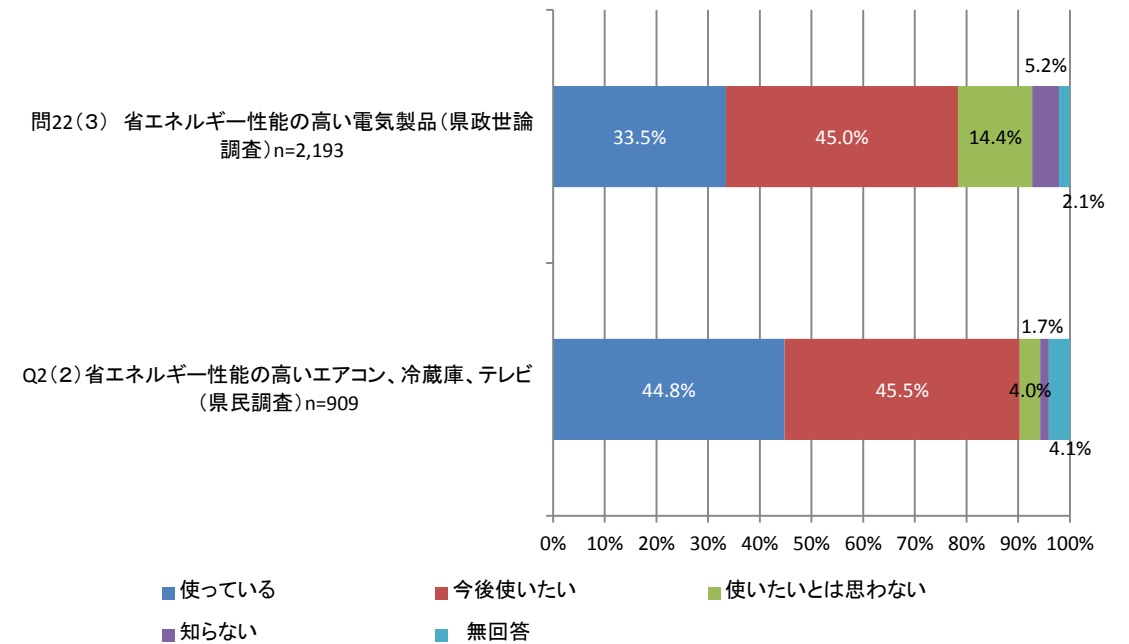


## 【省エネの取組や省エネ型の製品・設備の利用状況等について〔①省エネ取組、②LED照明、③省エネ家電〕】

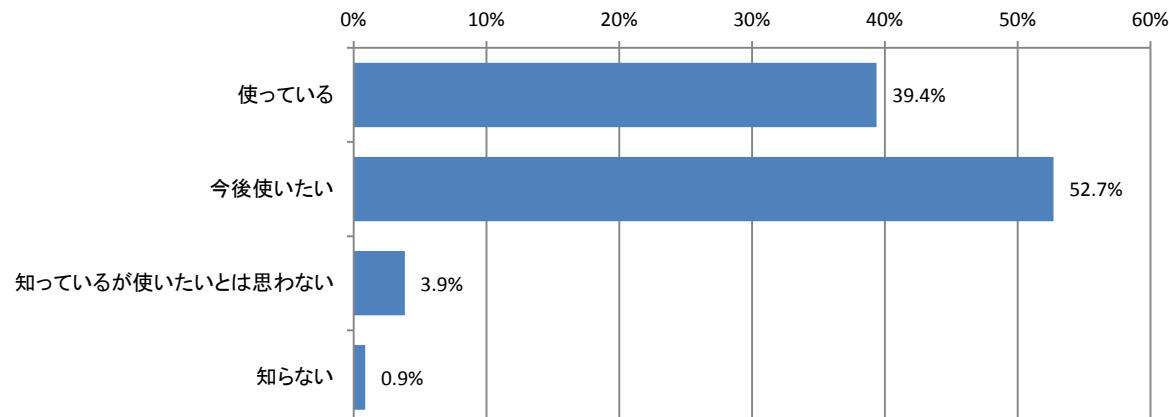
### 県政世論調査と県民調査との結果比較【①今年の夏に取り組んでいる省エネ取組】



### 県政世論調査と県民調査との結果比較【③省エネ家電の利用】

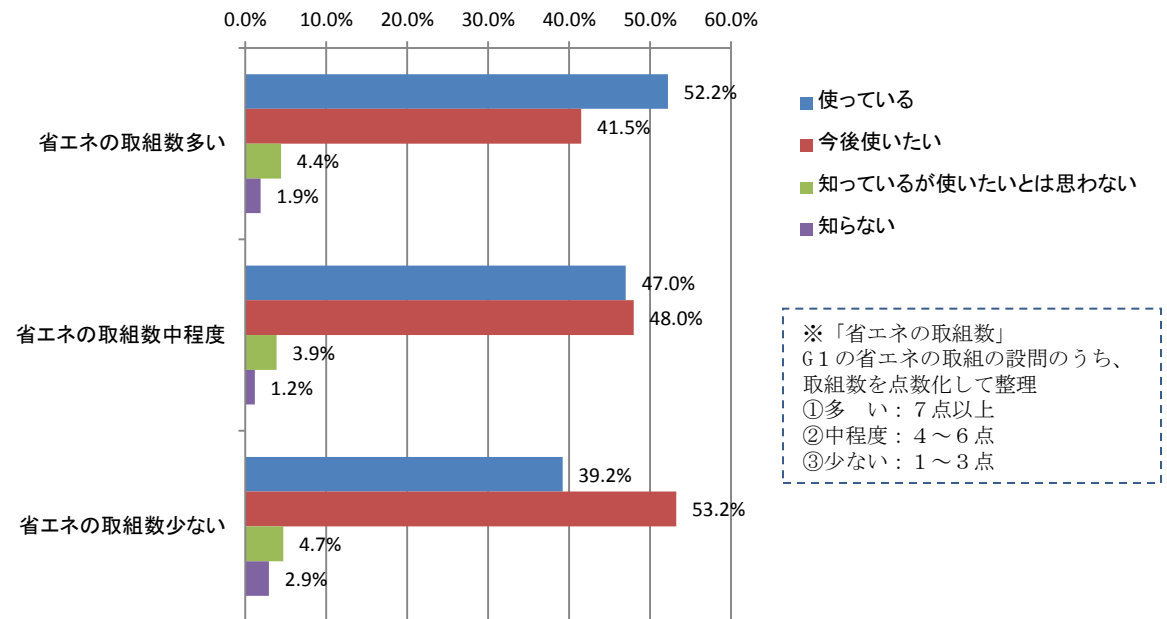


### G2: LED照明 n=909



「今後使いたい」「使っている」を合わせ9割超が、その効果を認め今後使用することになる

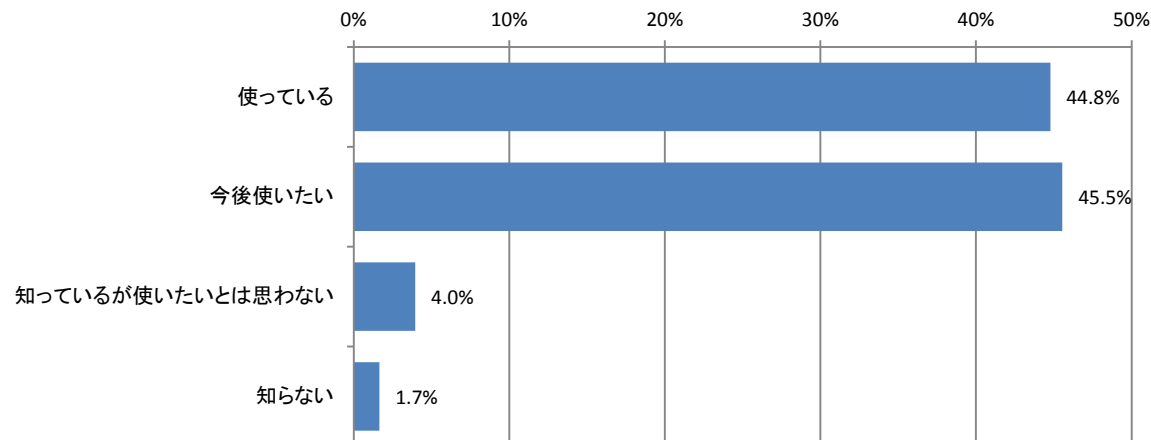
### G5: 省エネの取組数と省エネ性能の高い家電の利用意向 n=845



※「省エネの取組数」  
G1の省エネの取組の設問のうち、  
取組数を点数化して整理  
①多い：7点以上  
②中程度：4～6点  
③少ない：1～3点

「使っている」人は取組数多い人ほど割合が高く、「今後使いたい」人は取組数が少ない人ほど割合が高かった。

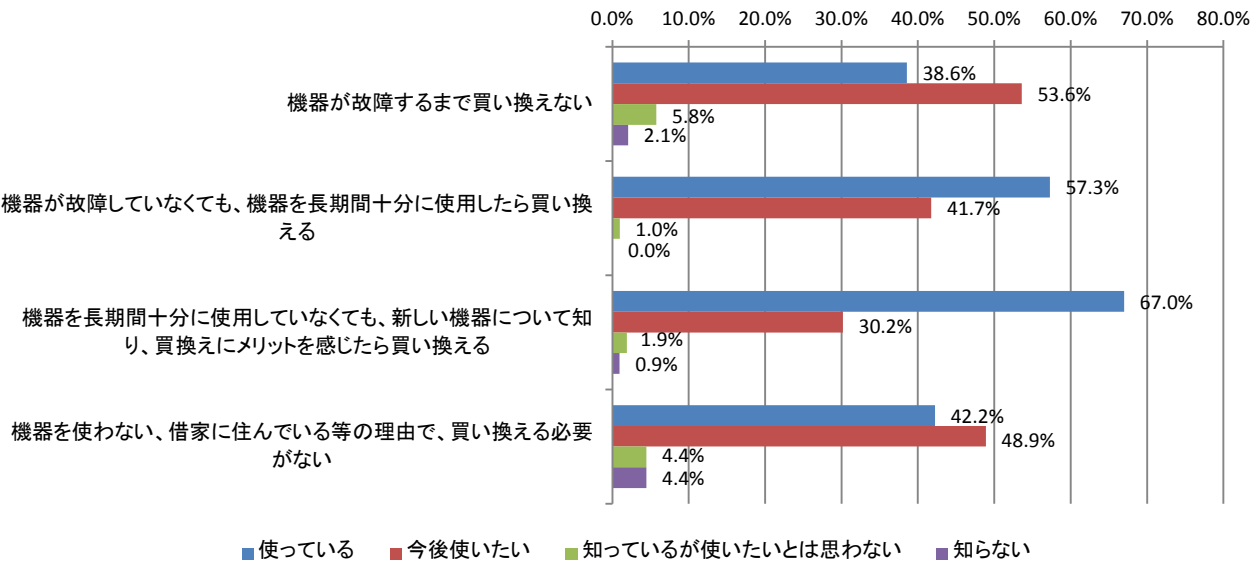
### G4: 省エネルギー性能の高いエアコン、冷蔵庫、テレビ n=909



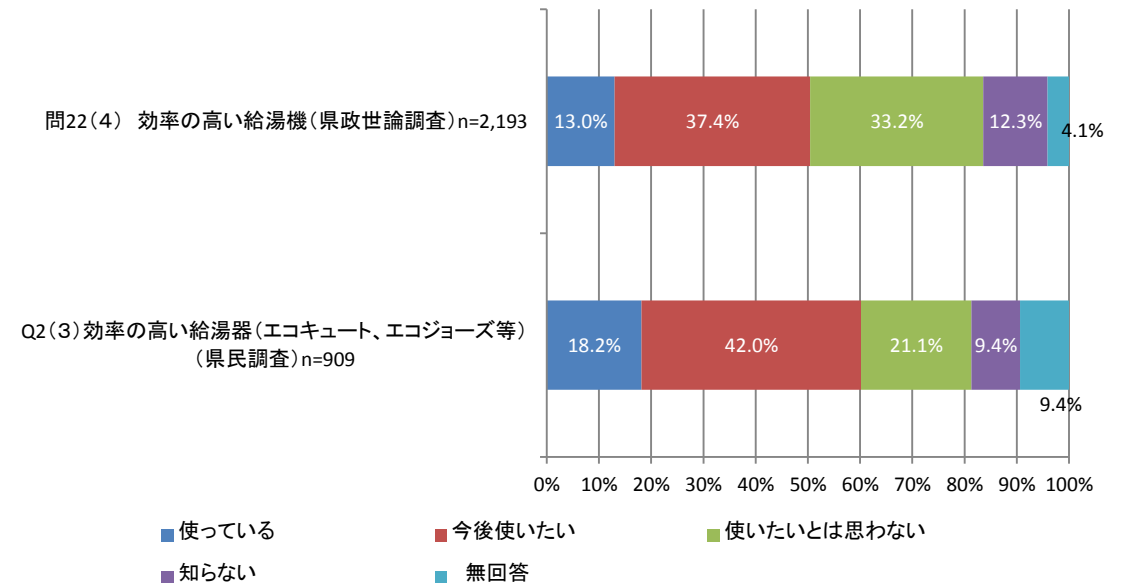
「今後使いたい」「使っている」8～9割。以下のとおり県民調査の方が高めな数値が出た。

## 【省エネの取組や省エネ型の製品・設備の利用状況等について〔③省エネ家電、④高効率給湯器〕】

G6: 省エネ性能の高い家電の利用意向とエアコンの買換えタイミング(n=842)



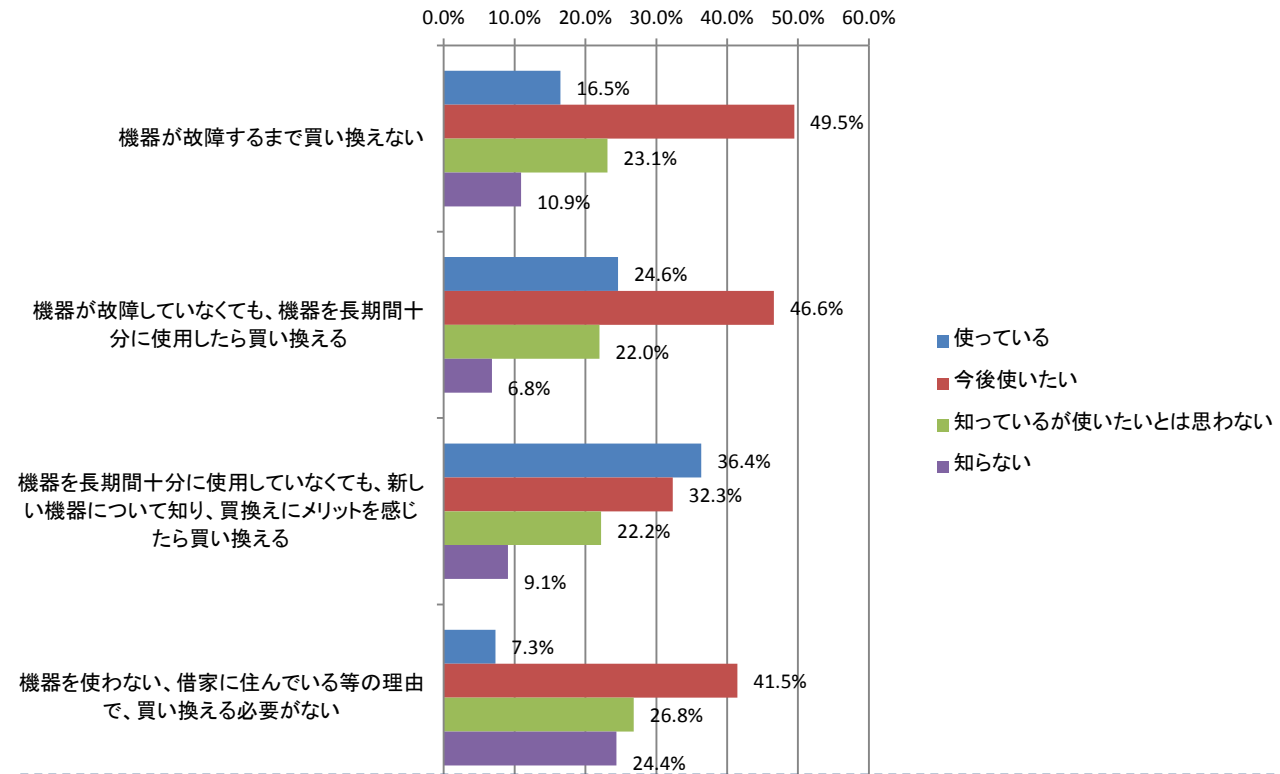
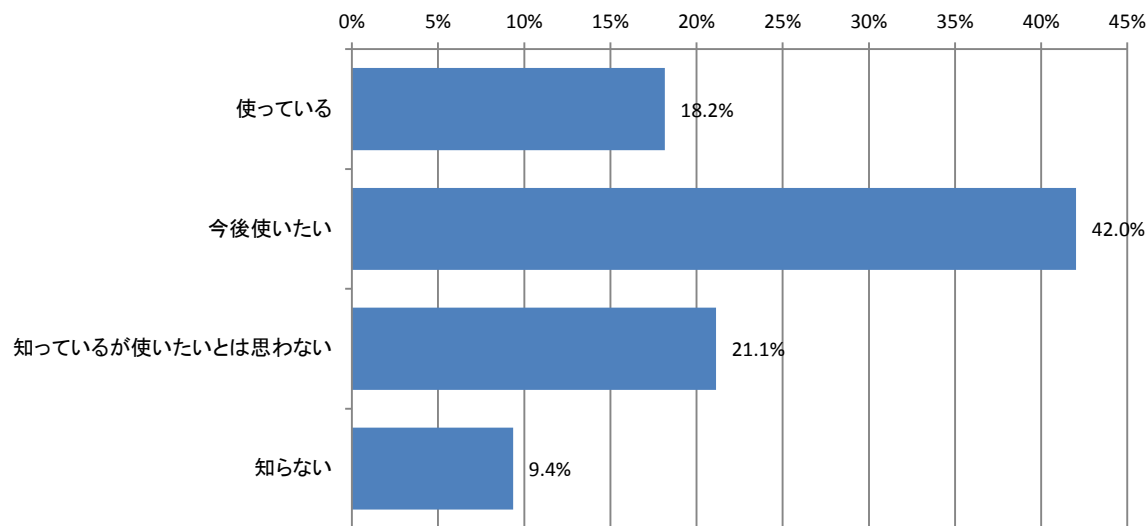
県政世論調査と県民調査の結果比較【④効率の高い給湯器の利用】



・既に省エネ家電を使っている人（3～4割）でも「買換えにメリットを感じたら買い換える」人が2／3程度いることから、買換えのタイミングを捉えてメリットをPRしていく必要がある。  
 ・なお、県政世論調査では、省エネ製品の購入理由を尋ねたところ、製品の買換えや新築・改築などの導入のタイミングがあったとの回答が52.9%であった。

G11: 高効率給湯器の利用意向とエアコンの買換えタイミング(n=798)

G8: 効率の高い給湯器(エコキュート、エコジョーズ等) n=909



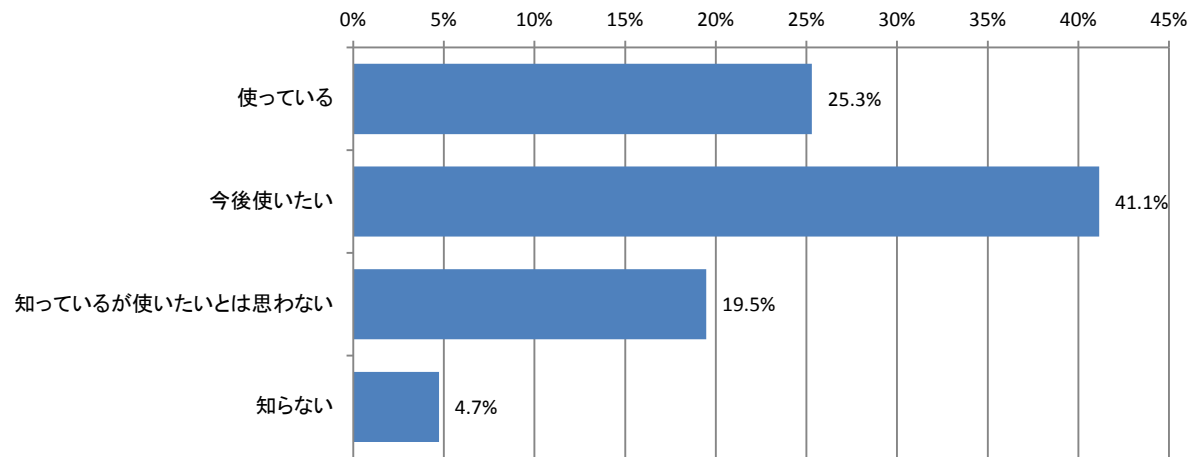
・「今後使いたい」が最も多かった。「知っているが使いたいとは思わない」の割合が2～3割で「LED照明」の数値に比べて高かった。  
 ・以下のとおり県民調査の方が「使っている」の割合が高く、「知っているが使いたいとは思わない」の割合が低い。

・「今後使いたい人」：エアコンを「機器が故障するまで買い換えない」と回答した人の5割。⇒買換え進捗：10年程度  
 ・既に「使っている人」：「買換えにメリットを感じたら買い換える」と回答した人の4割弱。⇒買換えタイミングを捉えたPRが必要

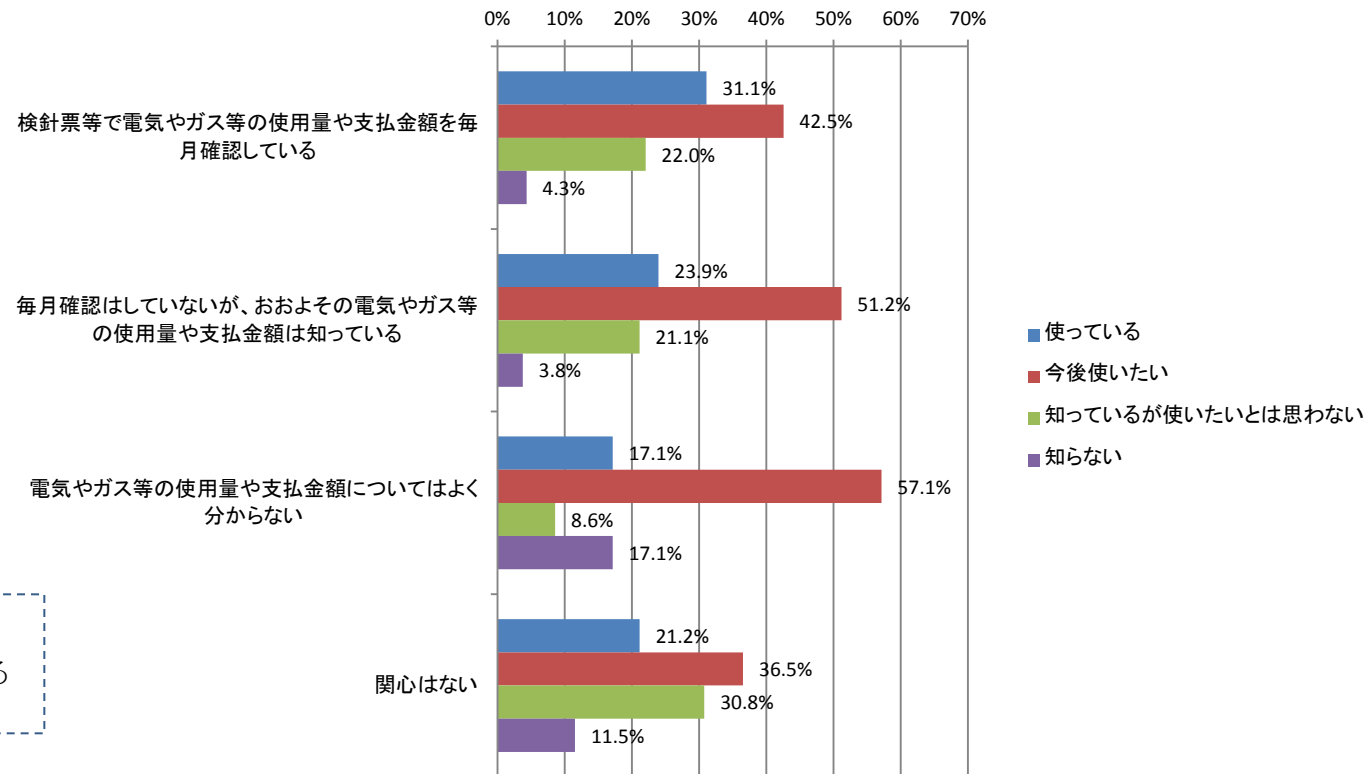
## 【省エネの取組や省エネ型の製品・設備の利用状況等について〔⑤建物の断熱化、⑥クリーンエネルギー自動車〕】

G14: 省エネへの関心・行動具合と建物の断熱化の意向 n=763

G12: 建物の断熱化(二重ガラス、断熱壁等) n=909

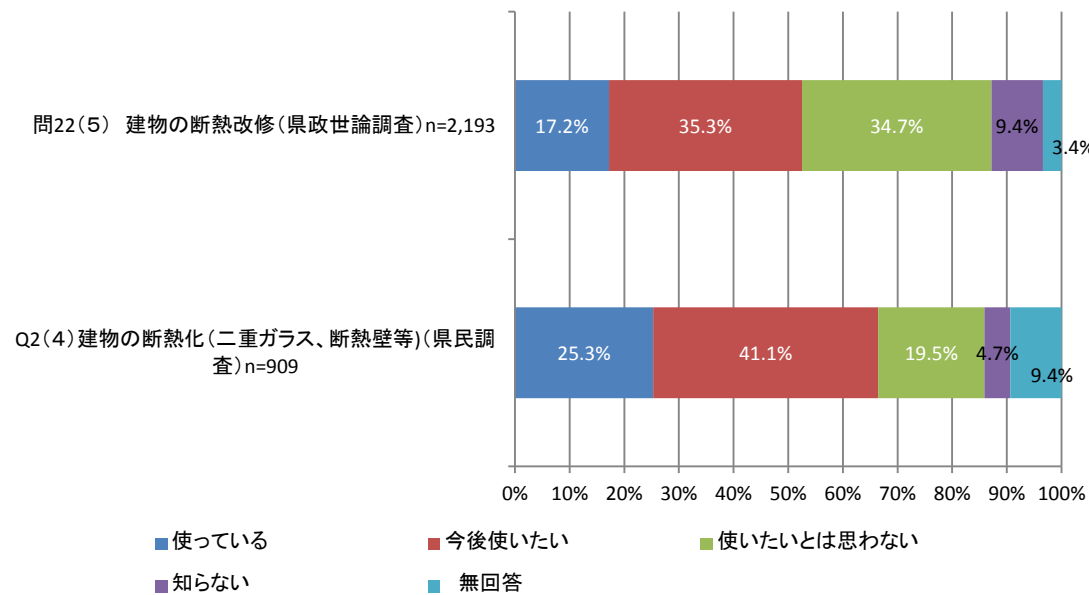


- ・「今後使いたい」が4割以上で最も多かった。「使っている」も1/4であった。
- ・以下のとおり県民調査の方が「今後使いたい」「使っている」の割合が高く、「知っているが使いたいとは思わない」の割合が低い。

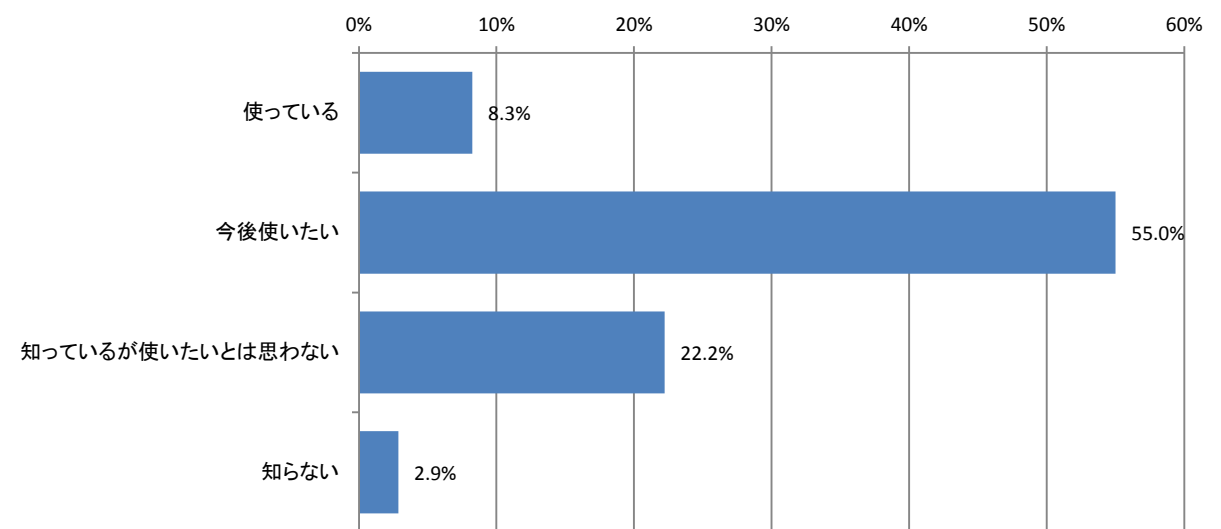


- ・電気・ガス代の使用量や支払金額を知っているかどうかに関わらず、「今後使いたい」が36.5～57.1%と最も多かった。
- ・「今後使いたい」と回答した人は、電気・ガス代の使用量や支払金額を知らない人ほど高かった。

## 県政世論調査と県民調査との結果比較【⑥建物の断熱化】



G16: クリーンエネルギー自動車(EV、HV、CNG車) n=909

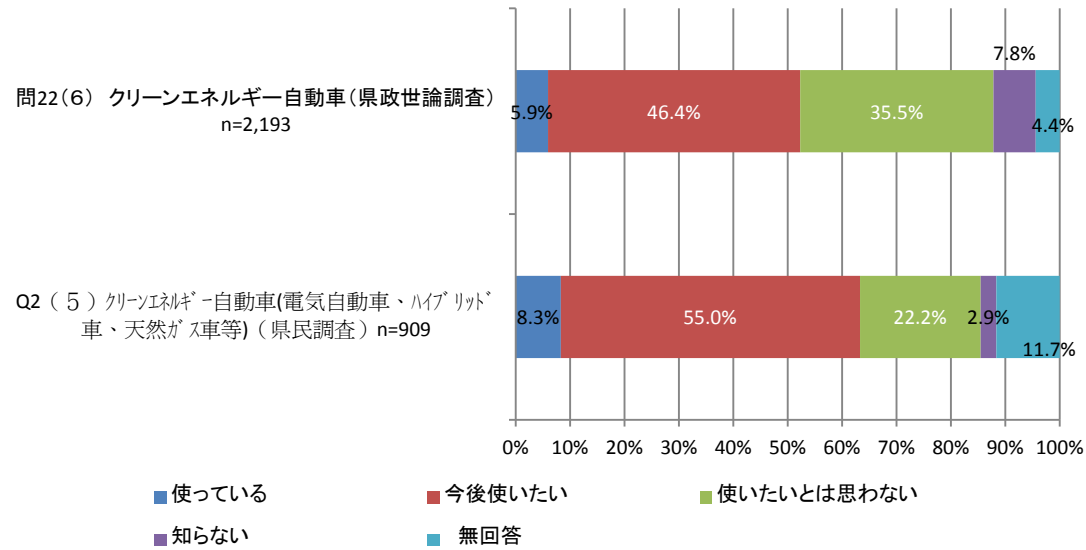


- ・「今後使いたい」が55%で最も多かった。「使っている」人は8%であった。
- ・以下のとおり県民調査の方が「今後使いたい」「使っている」の割合が高く、「知っているが使いたいとは思わない」の割合が低い。

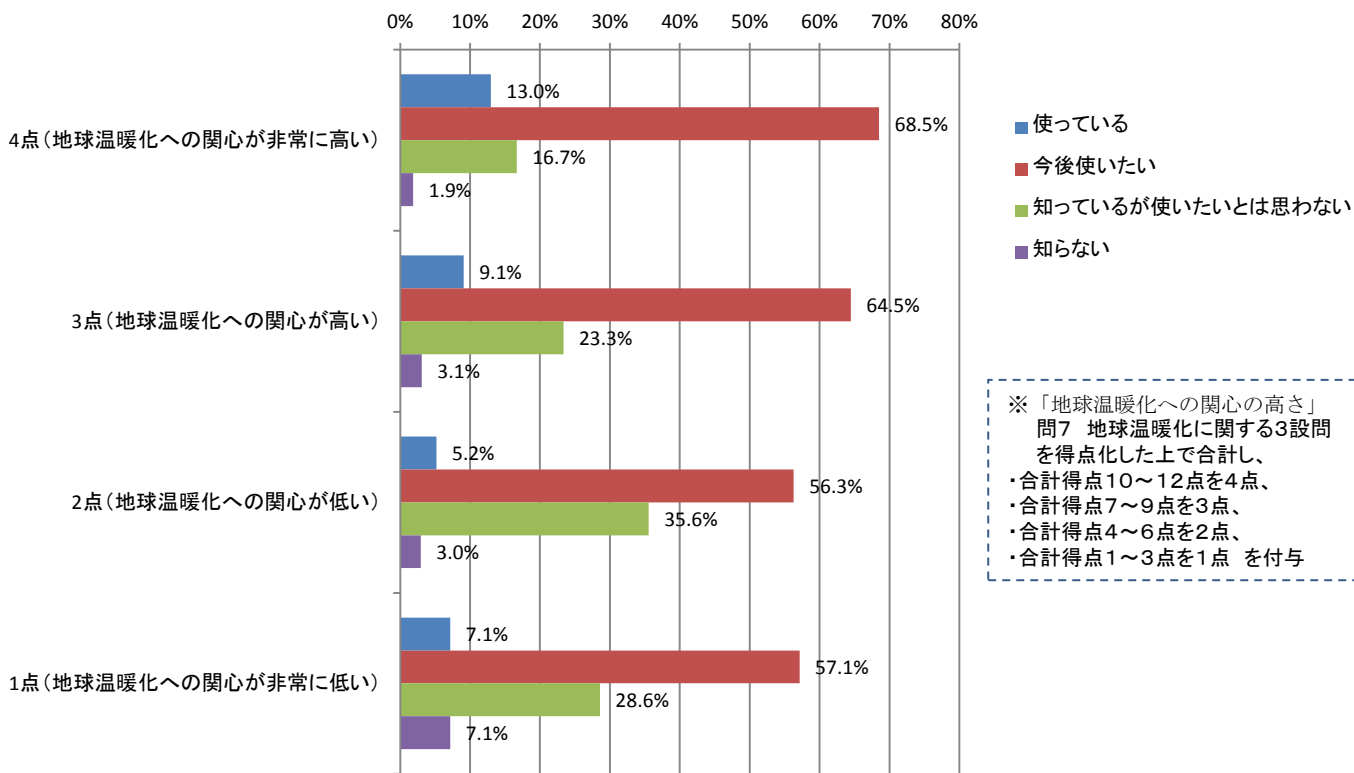


## 【省エネの取組や省エネ型の製品・設備の利用状況等について〔⑥クリーンエネルギー自動車〕】

### 県政世論調査と県民調査の結果比較【⑦クリーンエネルギー自動車の利用】



### G18: 地球温暖化への関心の高さとクリーンエネルギー自動車の利用意向 n=755

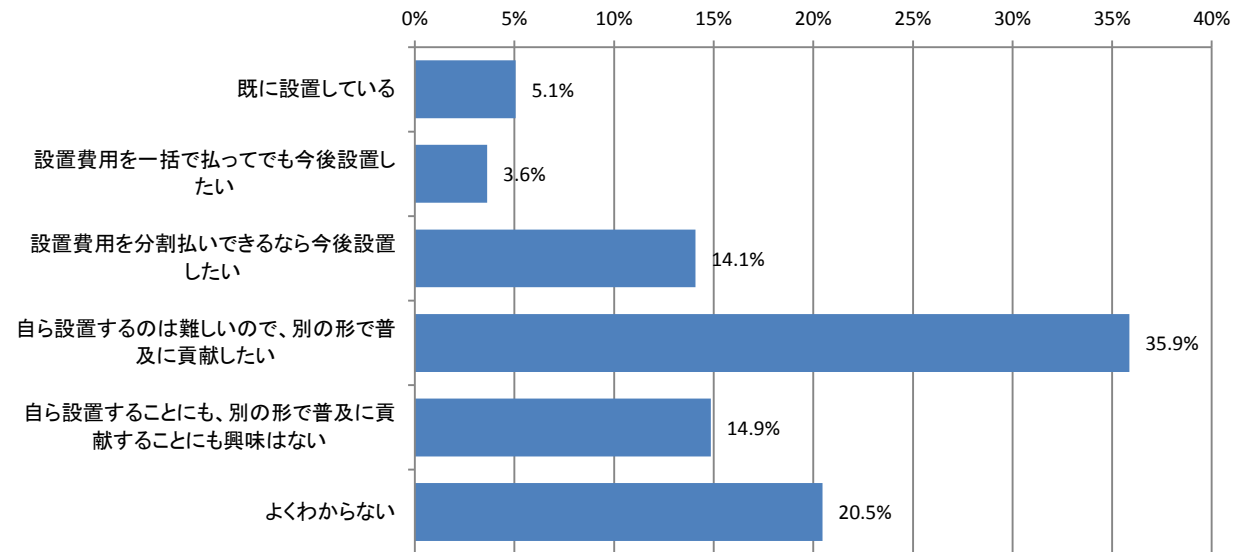


※「地球温暖化への関心の高さ」問7 地球温暖化に関する3設問を得点化した上で合計し、  
 ・合計得点10～12点を4点、  
 ・合計得点7～9点を3点、  
 ・合計得点4～6点を2点、  
 ・合計得点1～3点を1点を付与

・地球温暖化の関心が高い人ほど使いたいと考えている。  
 ・県政世論調査で、購入した理由：買換えや新築・改築など導入のタイミングがあった→46.9%、購入していない理由：買換えや新築・改築など導入のタイミングがない→31.4%  
 ⇒タイミングを捉えて、地球温暖化の関心の高い人にメリットをPRしていくと購入が進む可能性

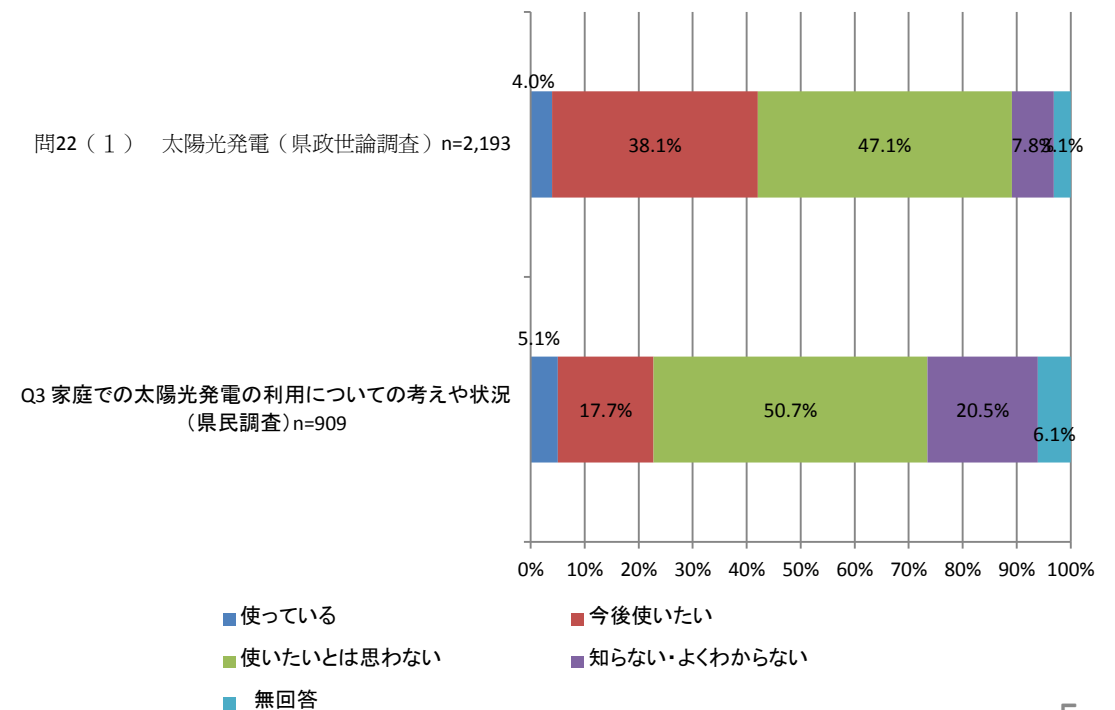
## 【家庭での太陽光発電の利用について】

### G19: 家庭での太陽光発電の利用についての考え n=909



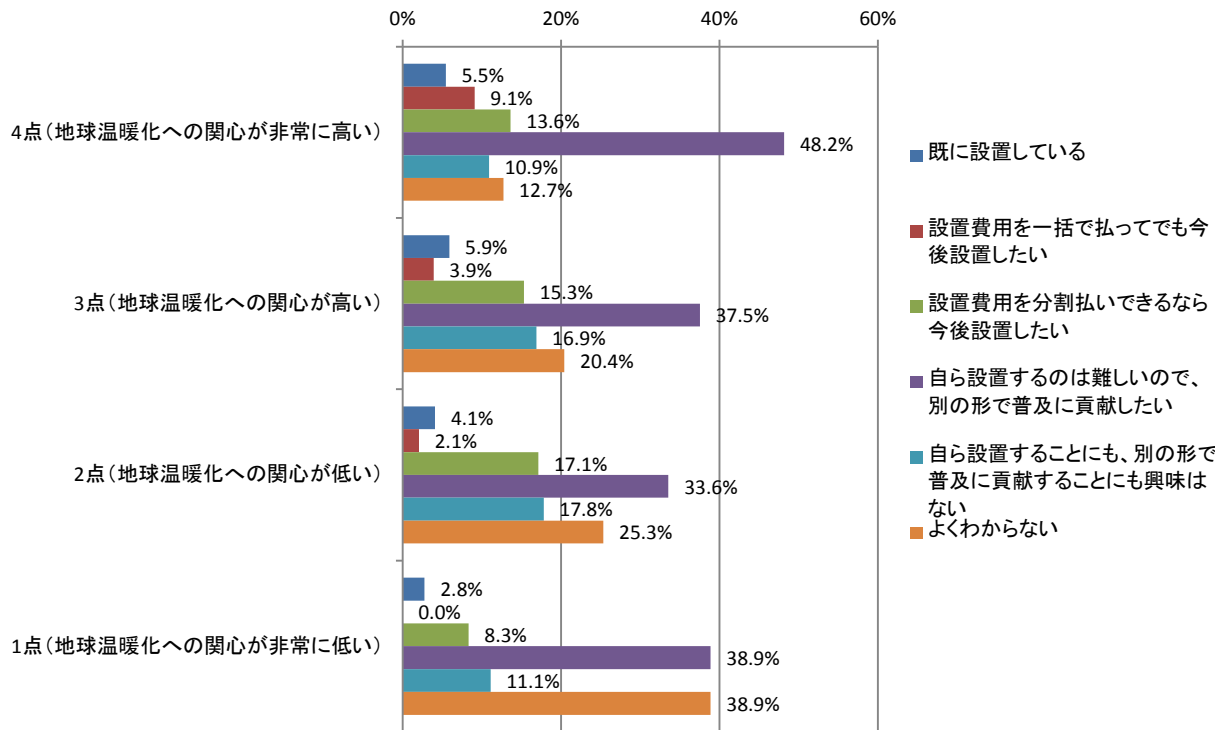
- ・「自ら設置するのは難しいので、別の形で普及に貢献したい」人：35.9%、「よくわからない」「設置にも貢献にも興味はない」人：35.4%にも上る。一方、「既に設置している」「今後設置したい」人の合計：22.8%である。
- ・ 全面的な普及⇒何か大きな社会の変化や制度の変化がないと難しそうだと推測される
- ・ 以下のとおり、県民調査の方が「今後使いたい」が少なく、「知らない・よくわからない」が多い⇒回答者に占める高齢者の割合が高い可能性がある。

### 県政世論調査と県民調査との結果比較【③太陽光発電の利用】



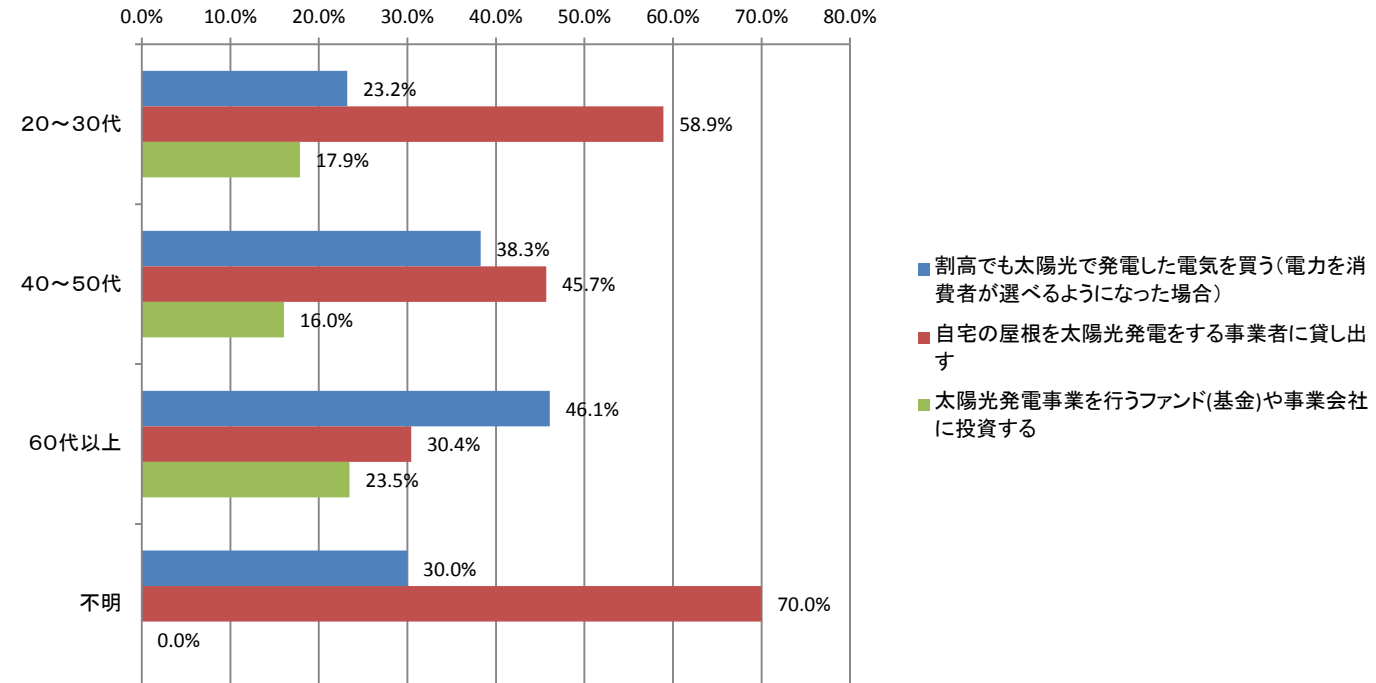
## 【家庭での太陽光発電の利用について】

G21: 地球温暖化の関心度別の太陽光発電設備の設置意向n=801



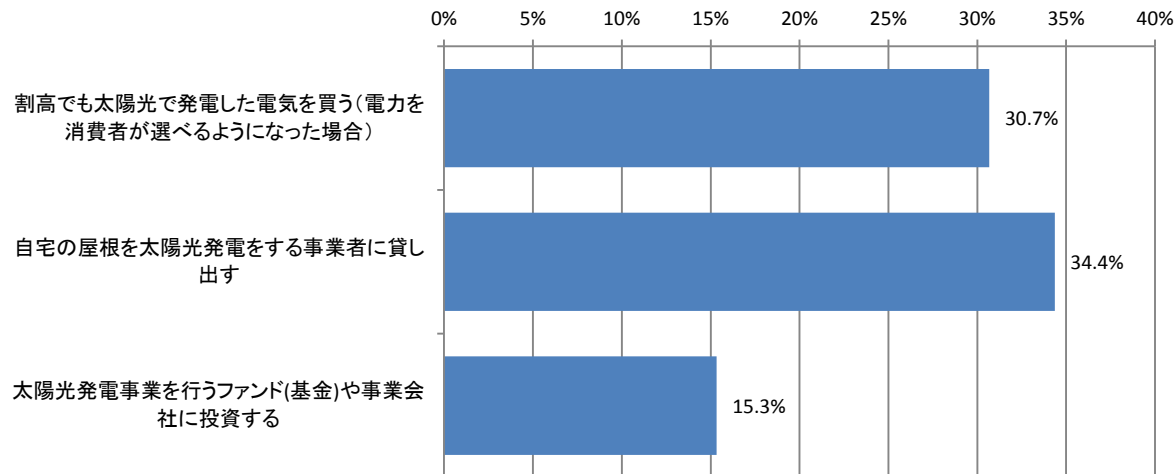
・地球温暖化への関心度が高い人ほど何らかのアクションを起こそうと考えている。

G24: 年代別の自ら設置しないが普及に貢献したい人の考えn=262



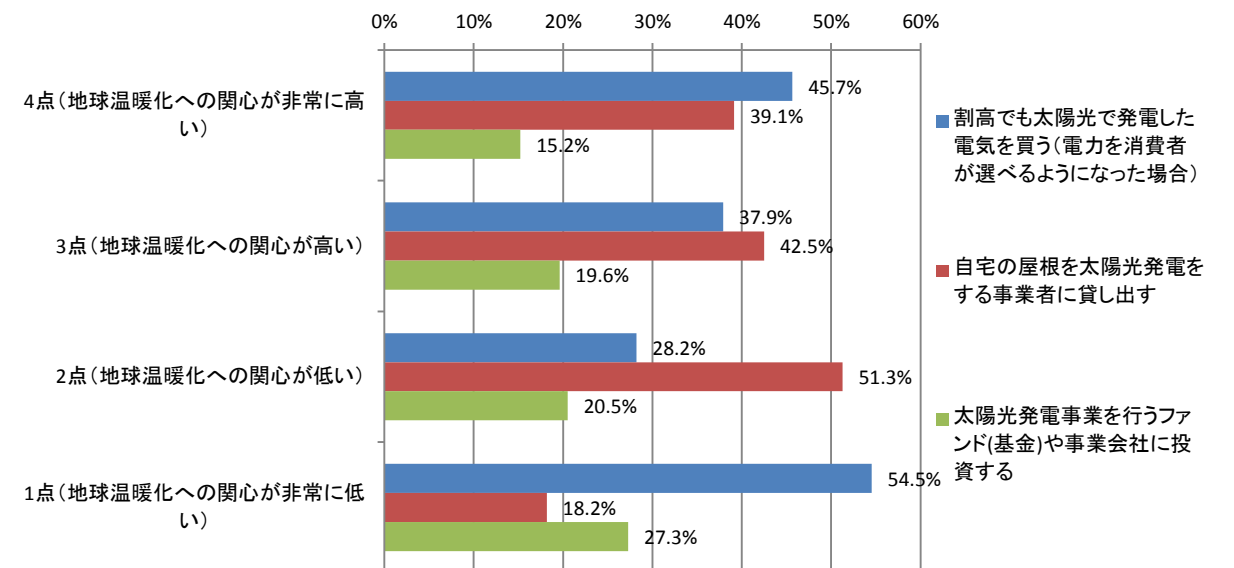
・屋根貸しを選択した人が若い人が多い。手持ちのお金を減らしたくないという心理が働いているか。  
 ・屋根貸し以外の方法を高齢の人が選択している。年齢とともに住宅も古くなり、住宅の強度が落ちてくること、年齢の関係で10年・20年先が見通せなくなるなどの心理が働いている可能性がある。

G23: 自ら設置しないが普及に貢献したい人の考えn=326



・「自宅の屋根を貸し出す」と「太陽光発電の電気を買う」が3割以上となった。

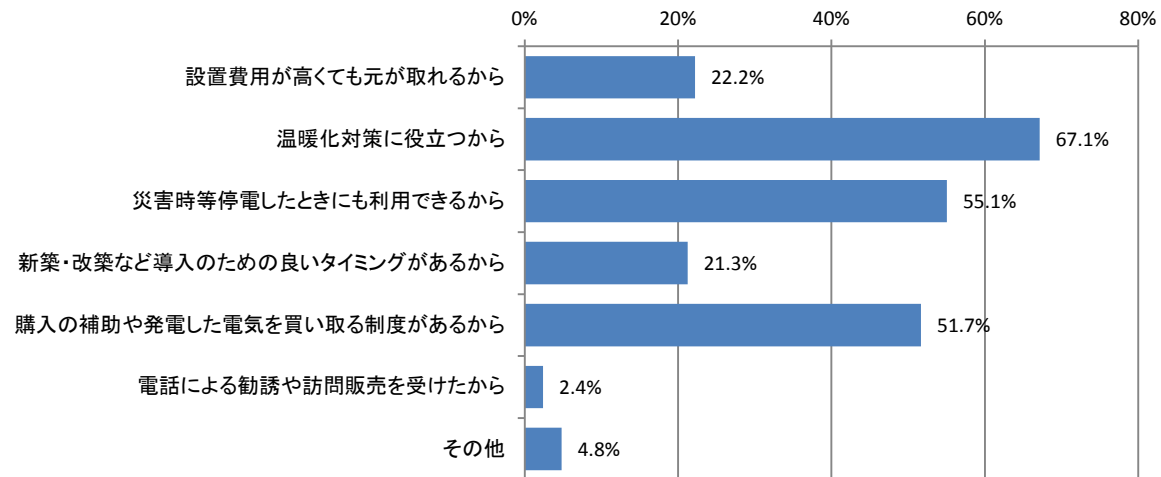
G25: 地球温暖化の関心度別の自ら設置しないが普及に貢献したい人の考えn=249



・地球温暖化への関心度が高い人ほど、太陽光発電普及に対し負担を厭わないことが考えられる。  
 ・一方で、関心度が低い人ほど、お金に注目しており、実際に手間がかかる方法ではなく、お金で解決できる方向を志向していると想像される。

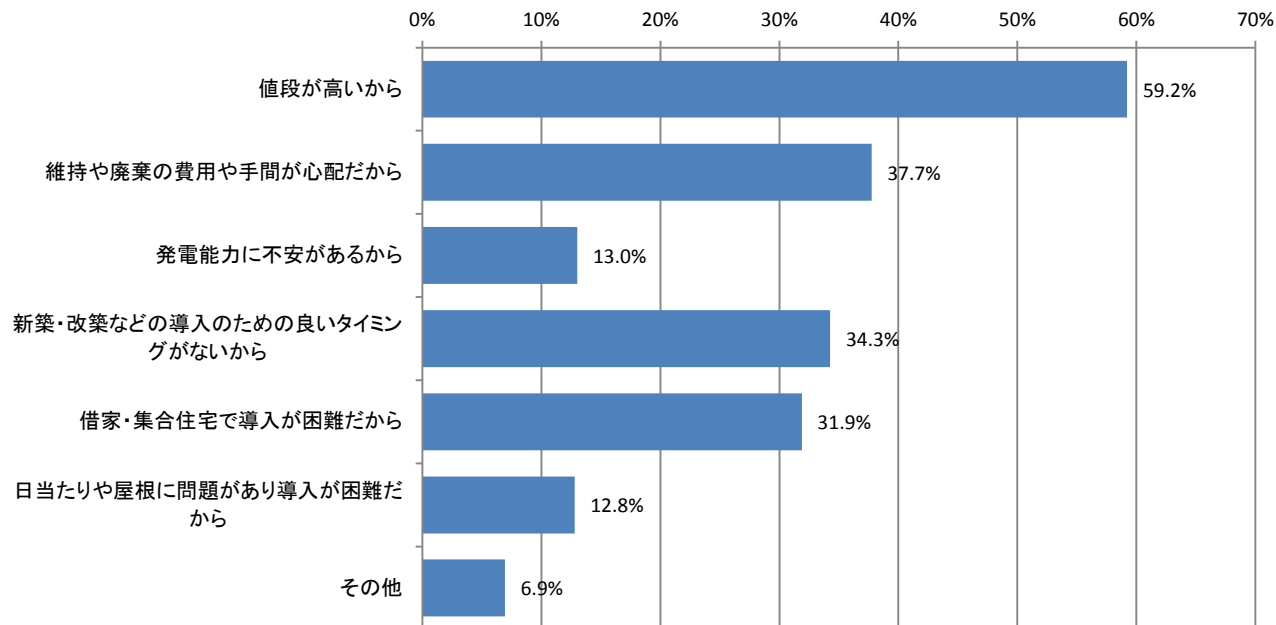
## 【家庭での太陽光発電の利用について】

G26: 設備を設置した又は今後設置したい理由(複数回答)n=207



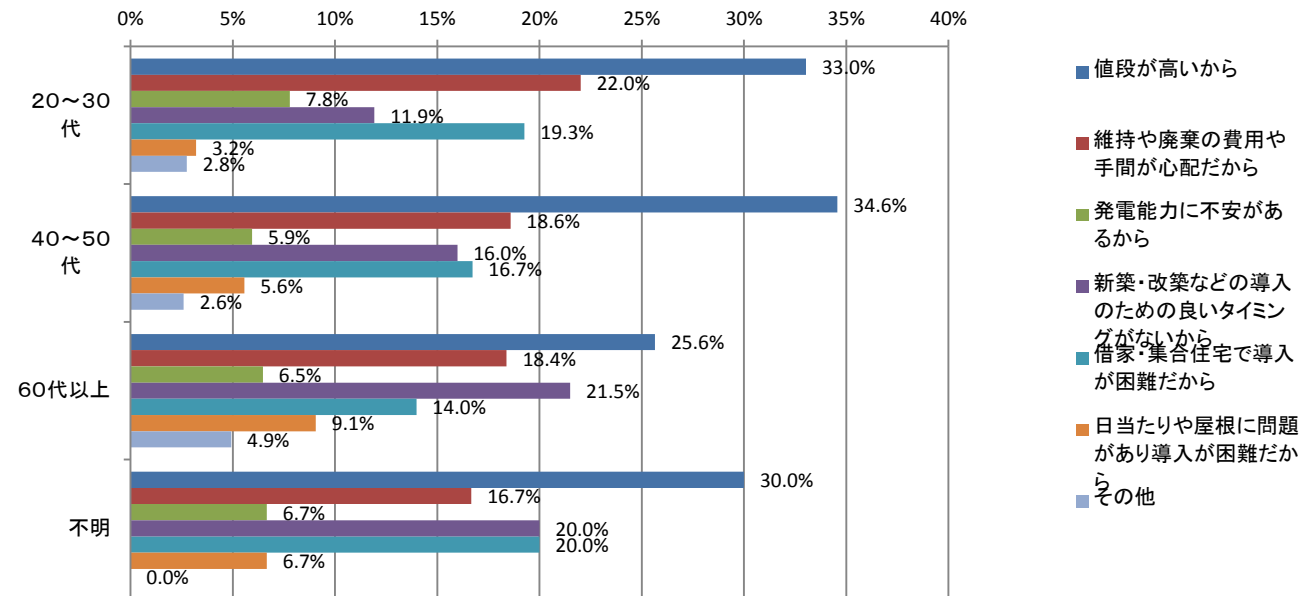
・災害時の停電でも使える、補助や電気買取制度があるからが高い割合であった。  
 ※「温暖化対策に役立つから」については、温暖化対策課発のアンケートであり、相当なバイアスがかかっていると思われる。

G28: 自ら設置が難しい又は興味のない理由(複数回答)n=461



・やはりまだまだ高価である。  
 ・「借家・集合住宅で導入が困難だから」「日当たりや屋根に問題があり導入が困難だから」など物理的に難しい人の割合も高いことが分かる。  
 ・「維持や廃棄の費用や手間が心配だから」「発電能力に不安があるから」も多く、設備そのものに不安を感じていることが分かる。

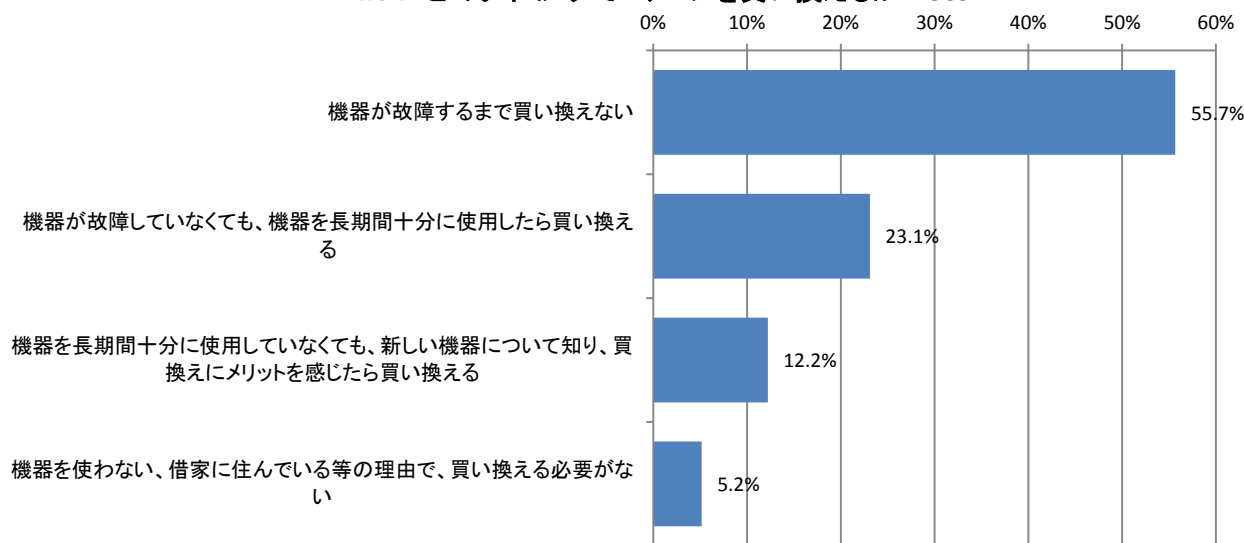
G29: 年代別の太陽光発電設備を自ら設置するのが難しい理由(複数回答)n=461



・若い人は値段が高いことが一番のネックになっていることが考えられるのに対し、高齢の人はタイミングや屋根の問題が大きくなっていることが考えられる。

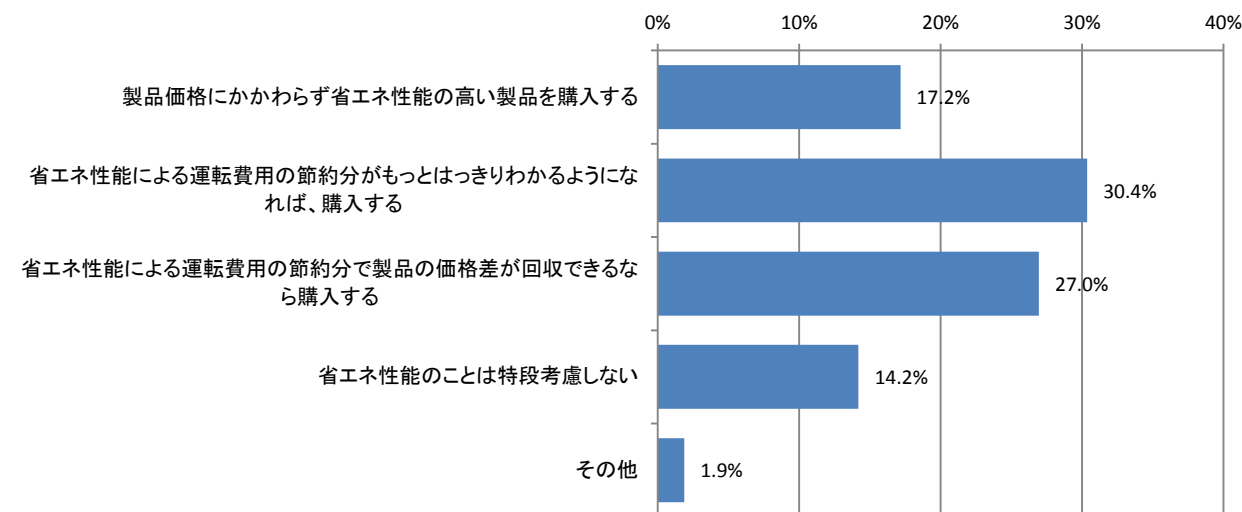
## 【エアコンの買換えについて】

G30:どのタイミングでエアコンを買い換えるかn=909



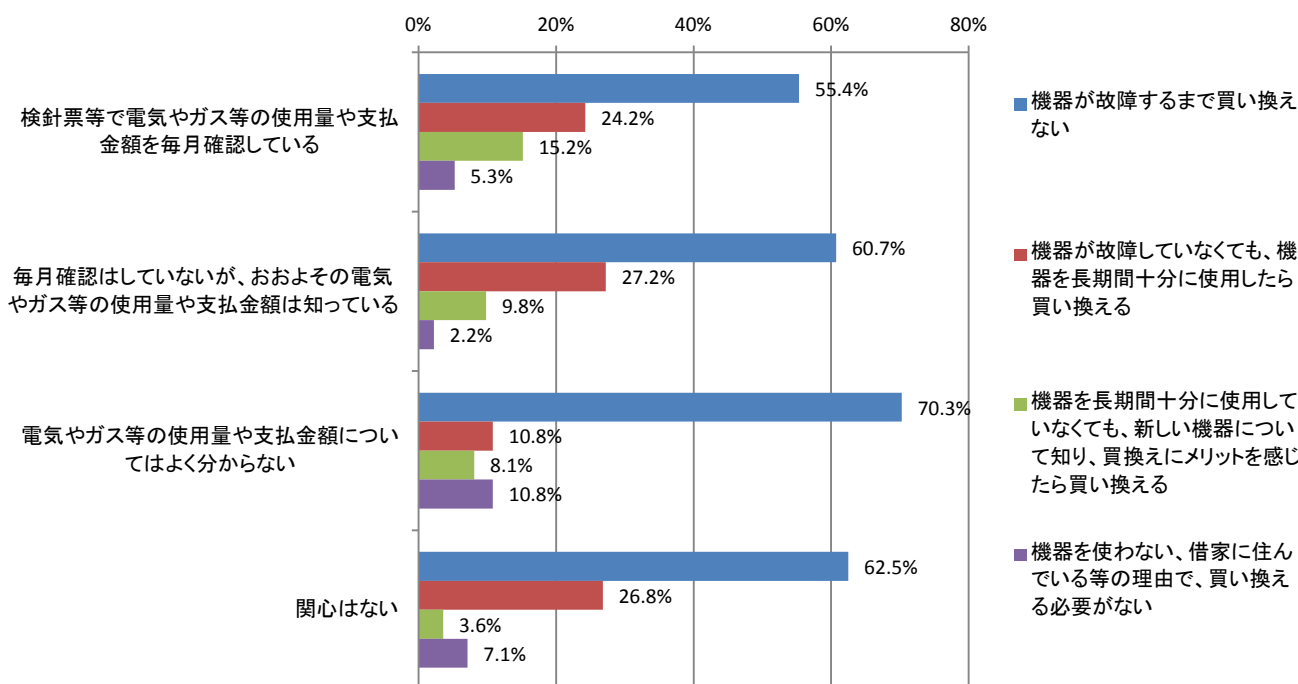
・日本人の「もったいない意識が高い」ことを反映した結果となった。物への愛着、買い換えによる新しい機器を導入する際の煩わしさなどが複合的に関わっている可能性がある。

G33:エアコンはどの場合に省エネ型製品を選ぶかn=909



・省エネ型エアコンのライフサイクルコストが、通常型のコストよりも下回ることがわかれば、省エネ型製品を選ぶ可能性が高い。

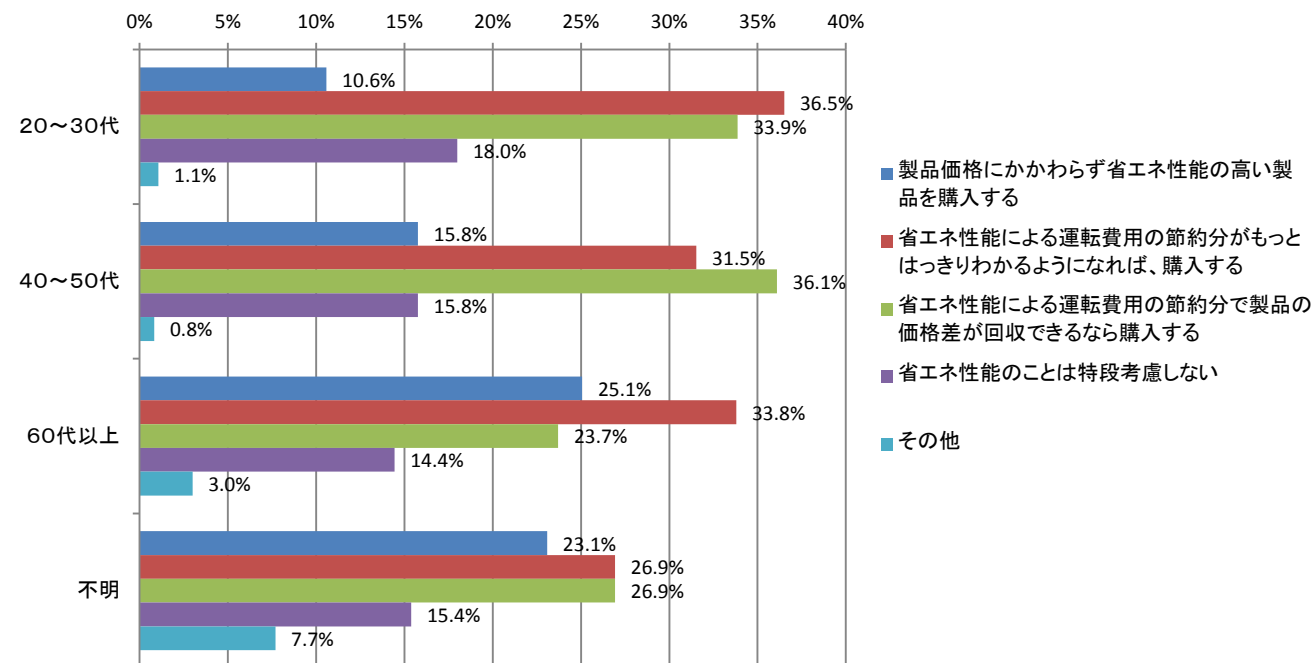
G32:省エネへの関心・行動具合とエアコン買換えタイミングn=812



・エアコンの買換えは「機器が故障するまで買い換えない」人が圧倒的な中で、電気やガスの使用量や支払金額を毎月確認している、いわば省エネへの関心・行動具合が高い人は合理的に考えた上で行動している割合が高いと考えられる。

反対に、省エネへの関心・行動具合が低い人については、あまり意識せずに機器が故障するまで使い続けている可能性が高いと考えられる。

G34:年代別の省エネエアコンを購入する動機n=823

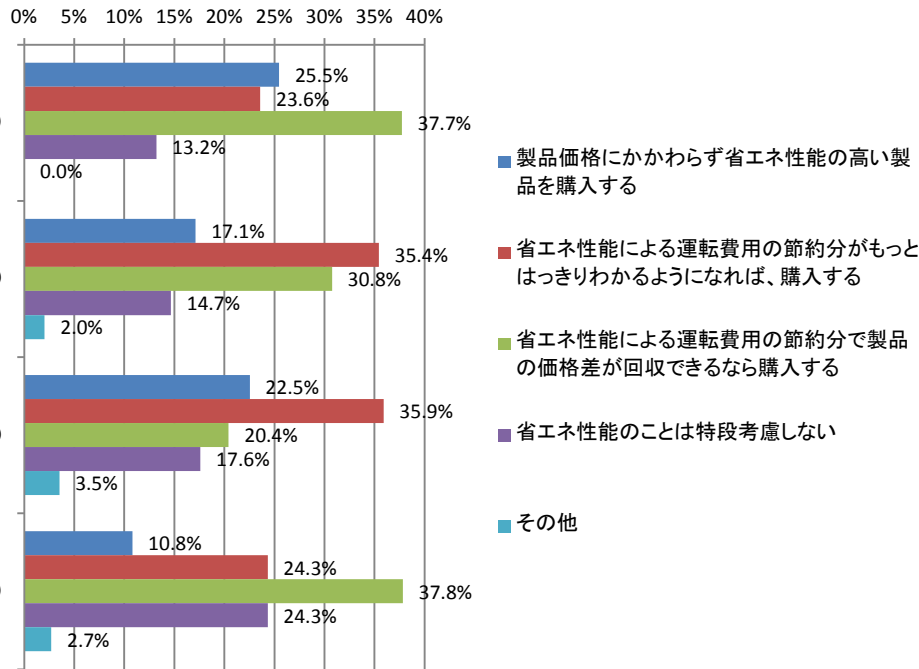


・高齢になるほど省エネ性能に意を用いる人が多く、若くなるほど省エネ性能に意を用いない人が多いことが判明した。



## 【エアコンの買換えについて】

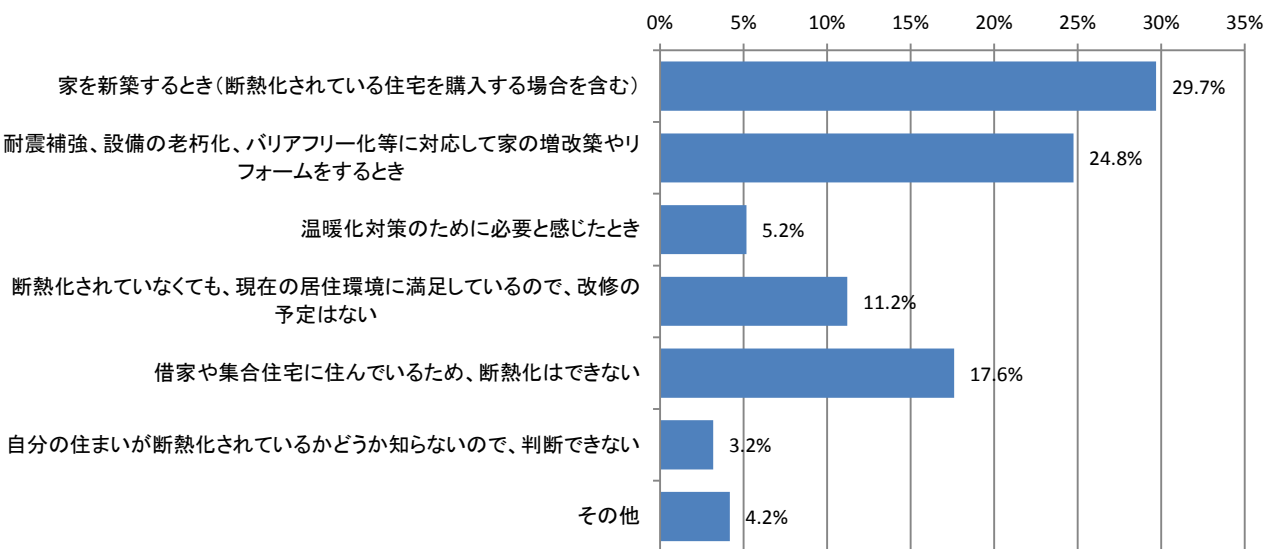
G37: 温暖化の関心度別の省エネエアコンを購入する動機 n=776



・地球温暖化への関心度の高い層には、価格差のメリットが明確に示せれば実際に購入する可能性が高くなると考えられる。

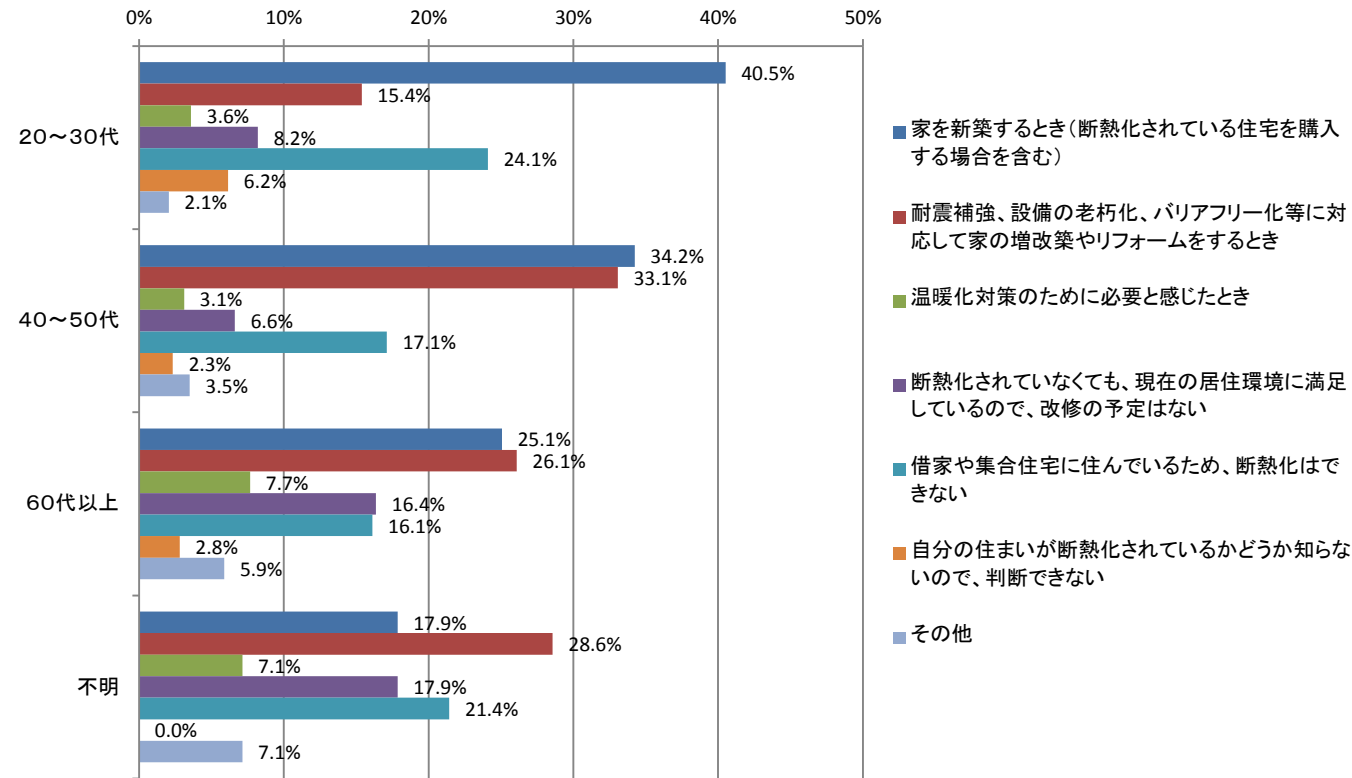
## 【住宅の断熱化について】

G38: どのタイミングで住宅を断熱化するか n=909



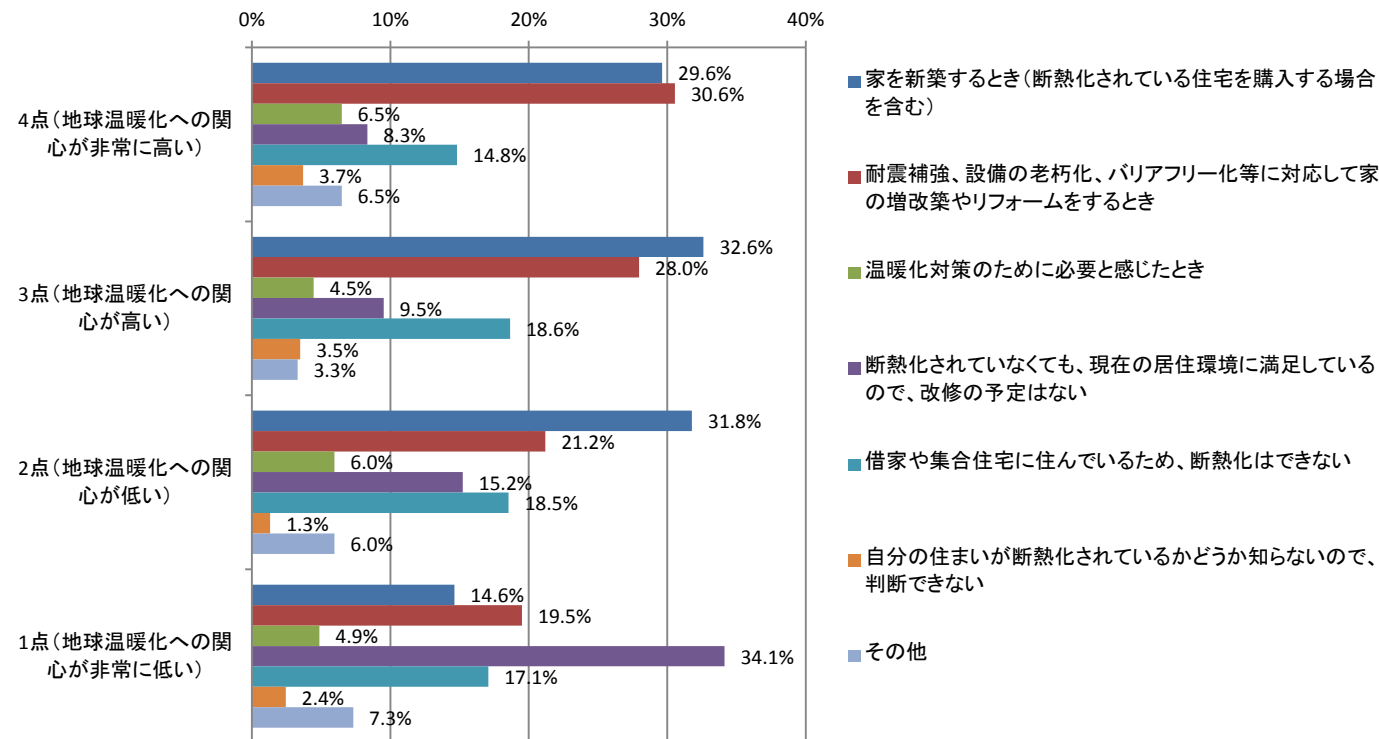
・「家を新築するとき」が29.7%と最も多く、次いで「耐震補強、設備の老朽化、バリアフリー化等に対応して家の増改築やリフォームをするとき」が24.8%だった。

G39: 年代別でどのタイミングで住宅を断熱化するか n=871



・「家を新築するとき」と「リフォームをするとき」が断熱化の2大タイミングである。  
 ・20～30代では借家や集合住宅から新築をするタイミングが断熱化するタイミングか。  
 ・60代以上は改修予定がない割合も増える。老後を見据えたリフォームをするときがタイミングか。

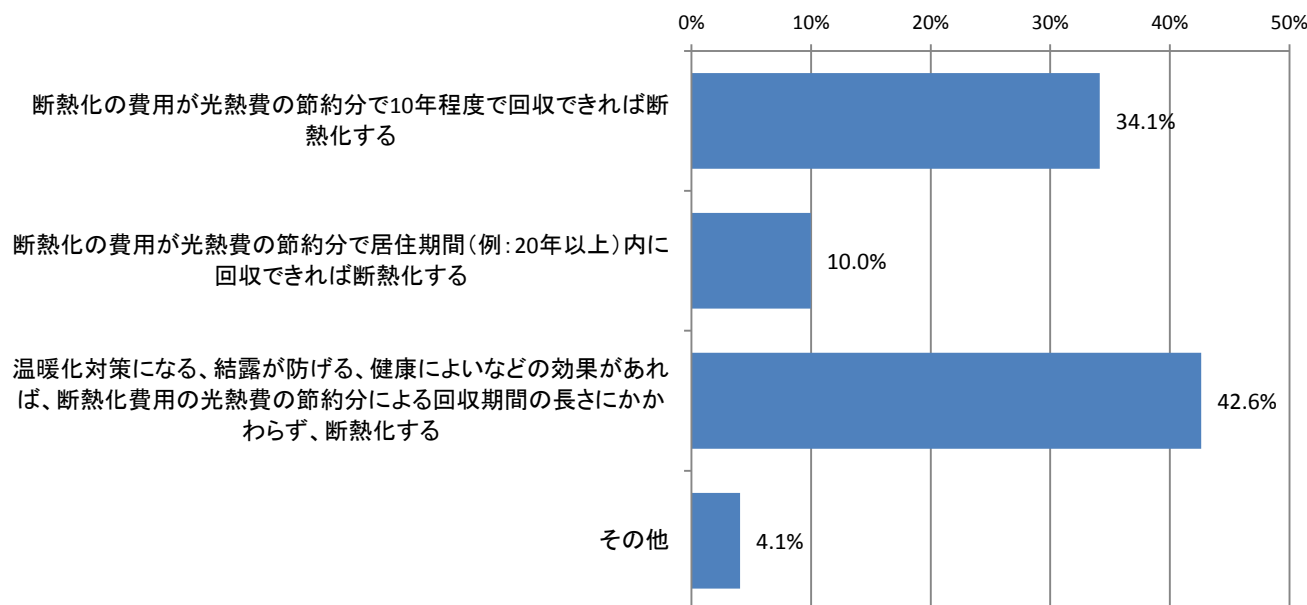
G40: 地球温暖化の関心度別でどのタイミングで住宅を断熱化するか n=815



・地球温暖化への関心が高い人は、地球温暖化対策のためにも何とか断熱化をしたいと考えている。

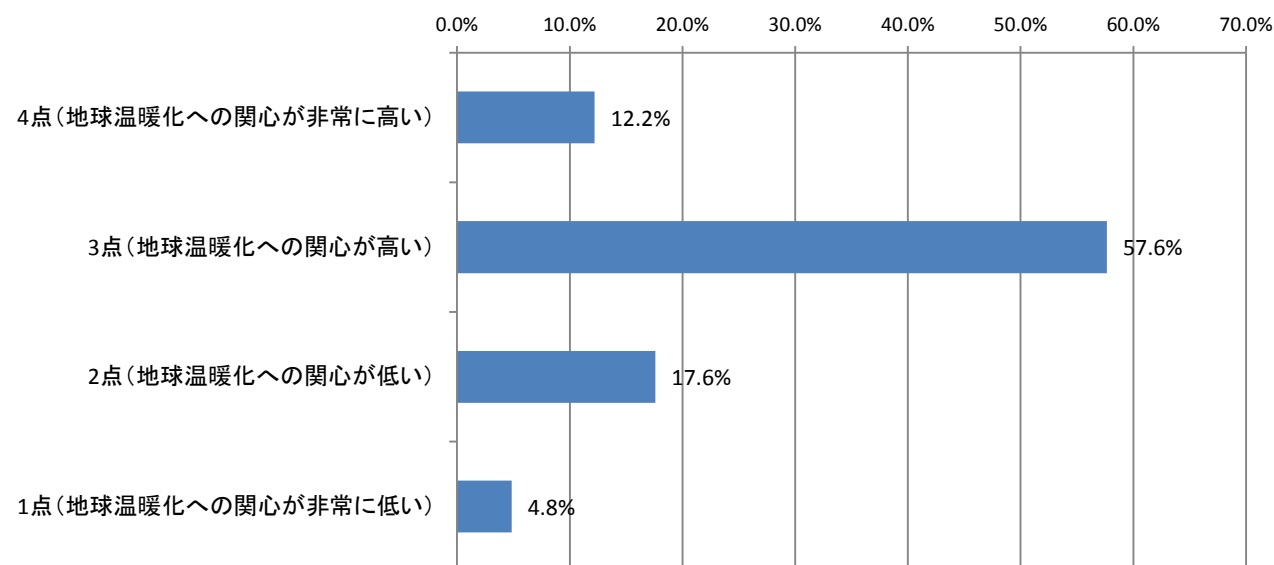
## 【住宅の断熱化について】

G41:住宅の断熱化をする条件n=542



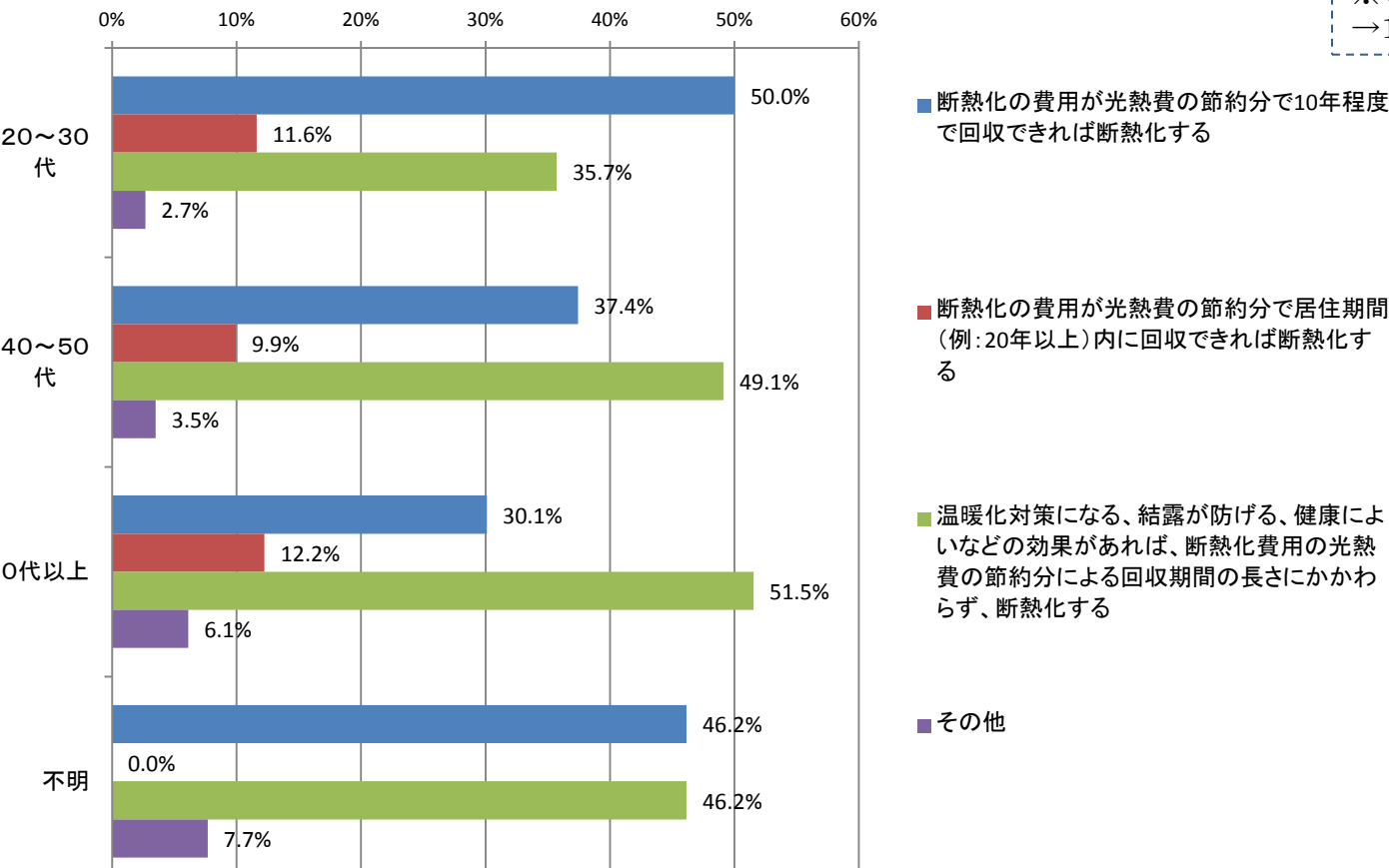
## 【地球温暖化問題やエネルギー使用量に対するお考えについて】

G43:地球温暖化の考え方に対する態度n=909



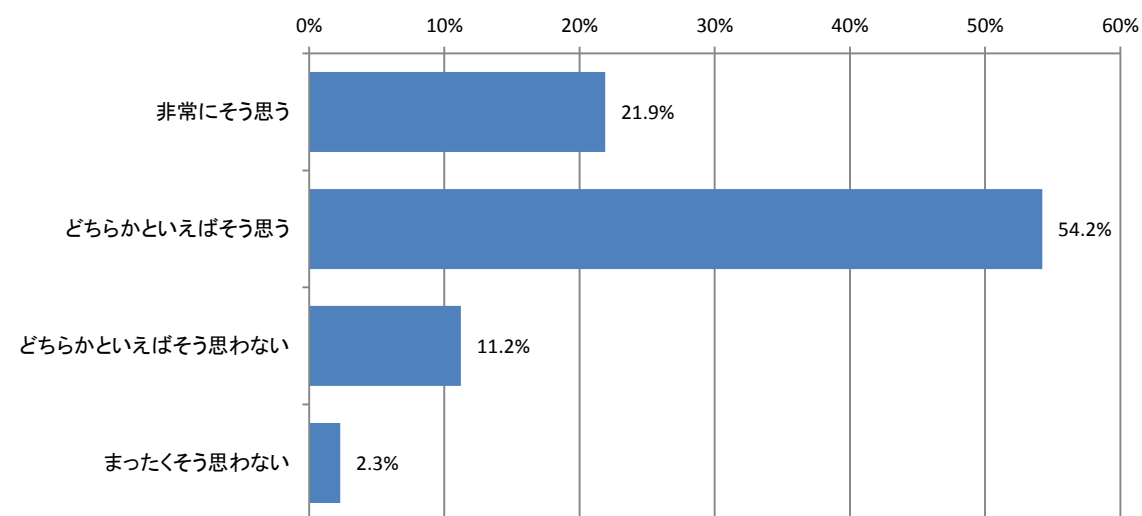
・Q7(1)「私の行動が地球温暖化防止につながる」、(2)「私の地球温暖化への影響は非常に小さい」、(3)「温暖化防止のため何をしていたかわからない」という3つの変数から、因子分析によって1つの因子を抽出したことで、地球温暖化への考え方、関心度が高いか低いかが表現できるようになった。さらに単純化するため、(1)～(3)までの設問を得点化(※)した上で合計し、合計得点10～12点を4点、合計得点7～9点を3点、合計得点4～6点を2点、合計得点1～3点を1点とした。  
 ※(1)「私の行動が地球温暖化防止につながる」は他の設問と選択肢の方向性の土が逆であるため、4点→1点、3点→2点、2点→3点、1点→4点と反転させている。

G42:年代別の住宅を断熱化する条件n=542



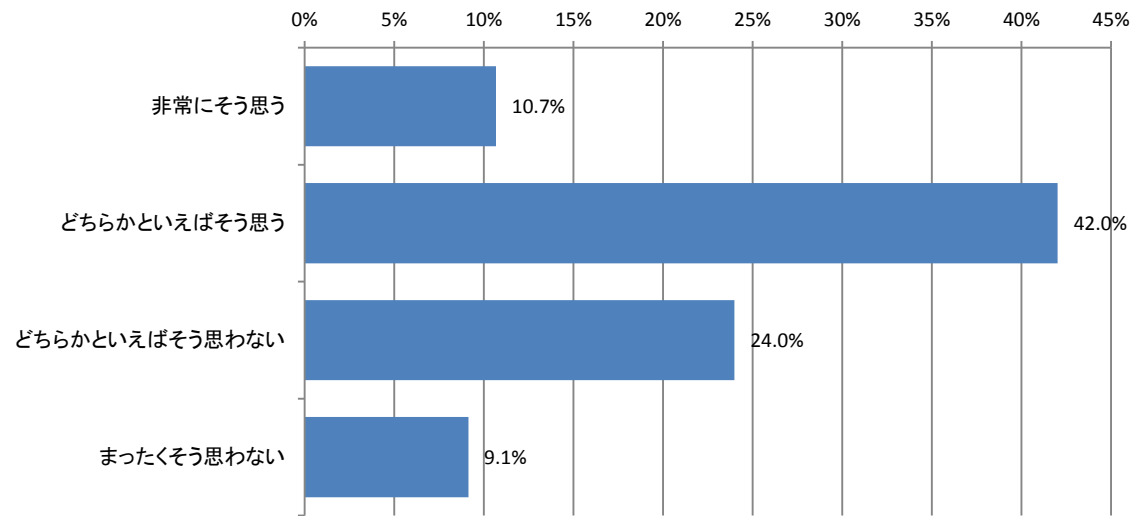
・年齢によって断熱化の条件がかなり異なることが分かった。若い世代の方が、経済的なゆとりのないせいか、費用対効果に敏感であると考えられる。

G44:私の行動が地球温暖化防止につながるn=909

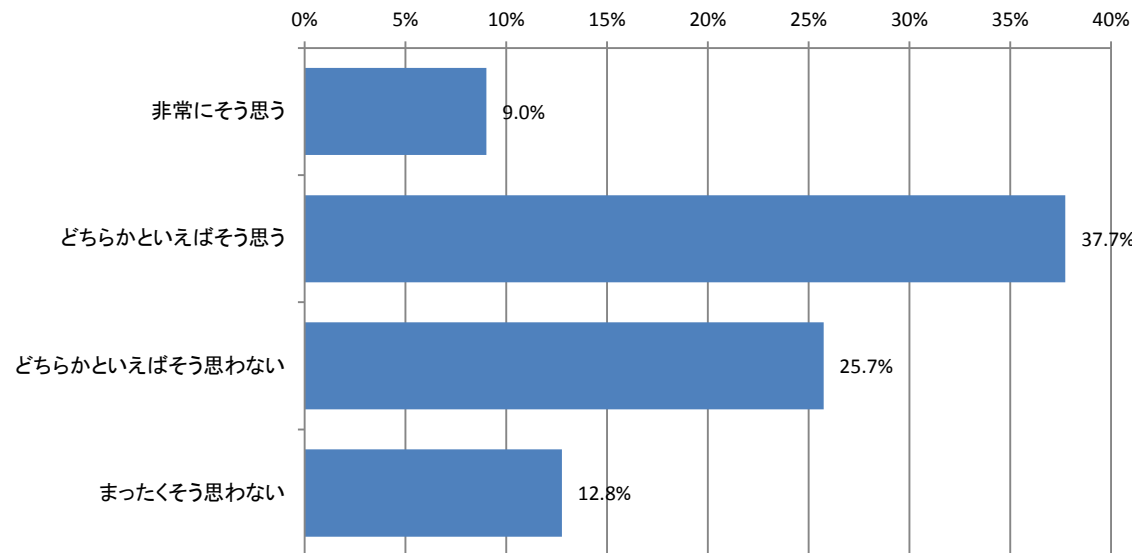


## 【地球温暖化問題やエネルギー使用量に対するお考えについて】

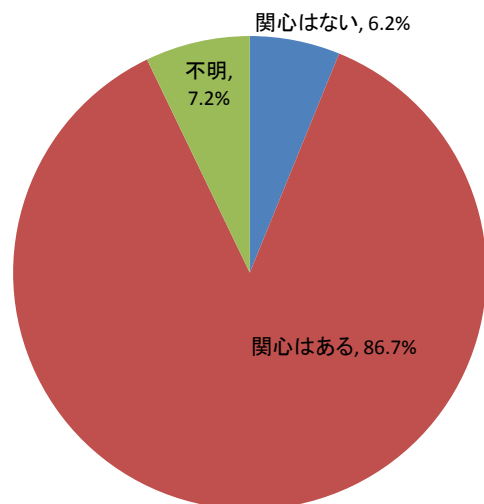
G45: 私の地球温暖化への影響は非常に小さいn=909



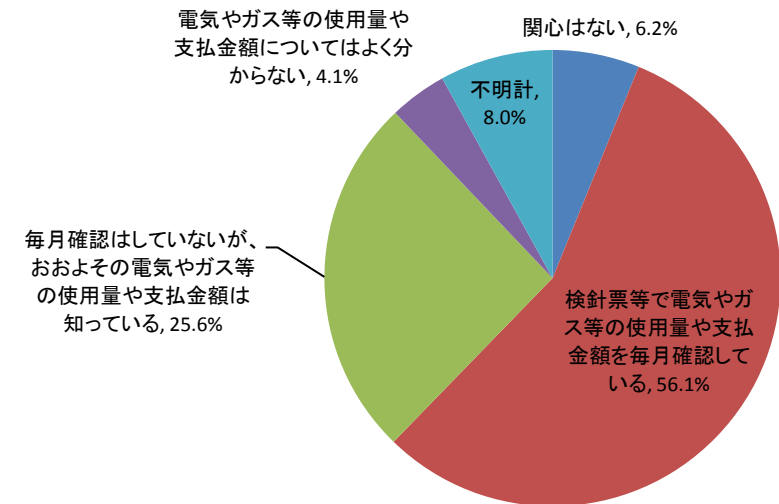
G46: 温暖化防止のため何をしたいかわからないn=909



G47: 自宅のエネルギー使用量を減らすことへの関心n=909

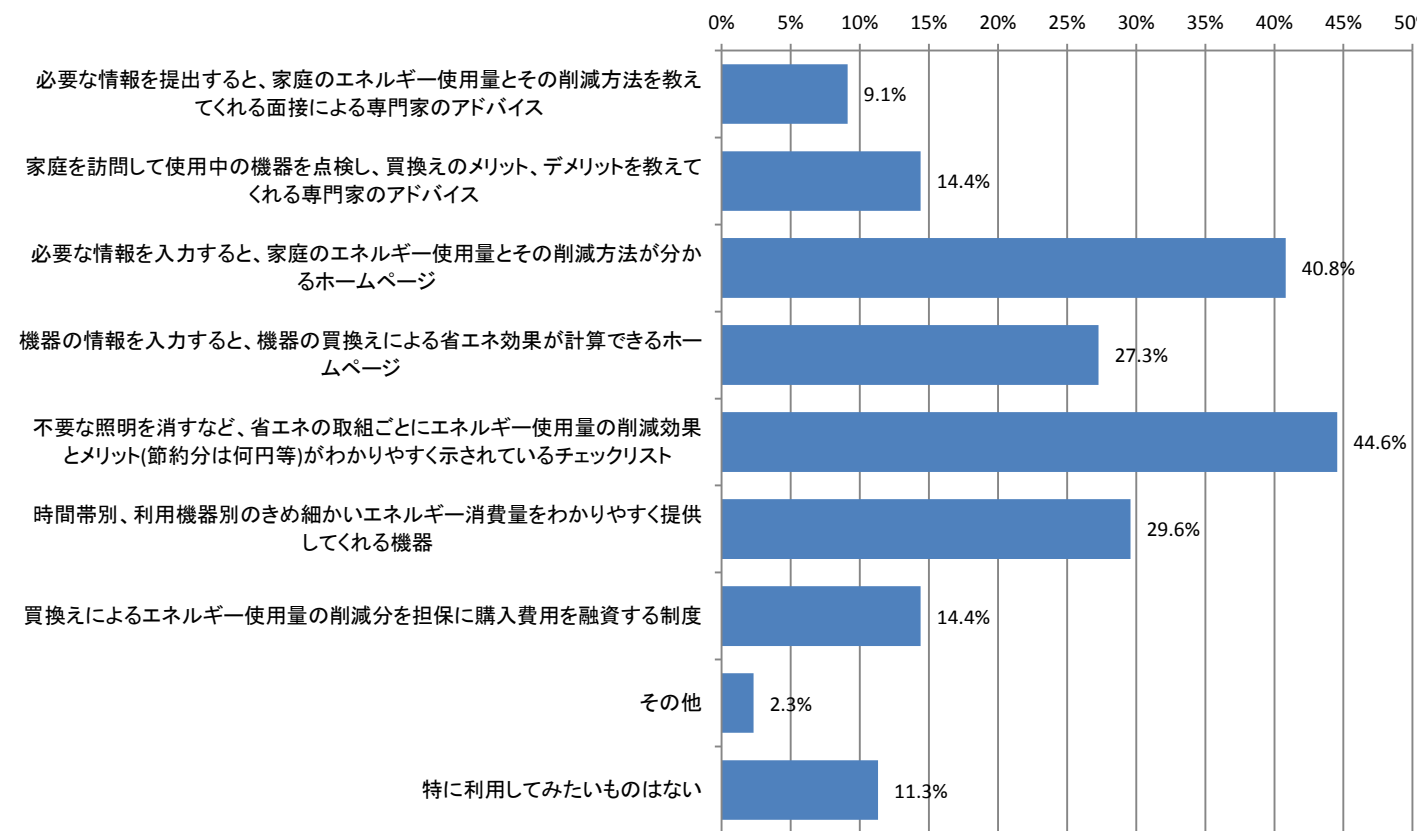


G48: 全体の中での減らすことに関心があると答えた人の状況n=909



・東日本大震災以後、電気を中心にエネルギーの使用量や支払金額について、多くの県民が敏感になっていることがうかがえる。

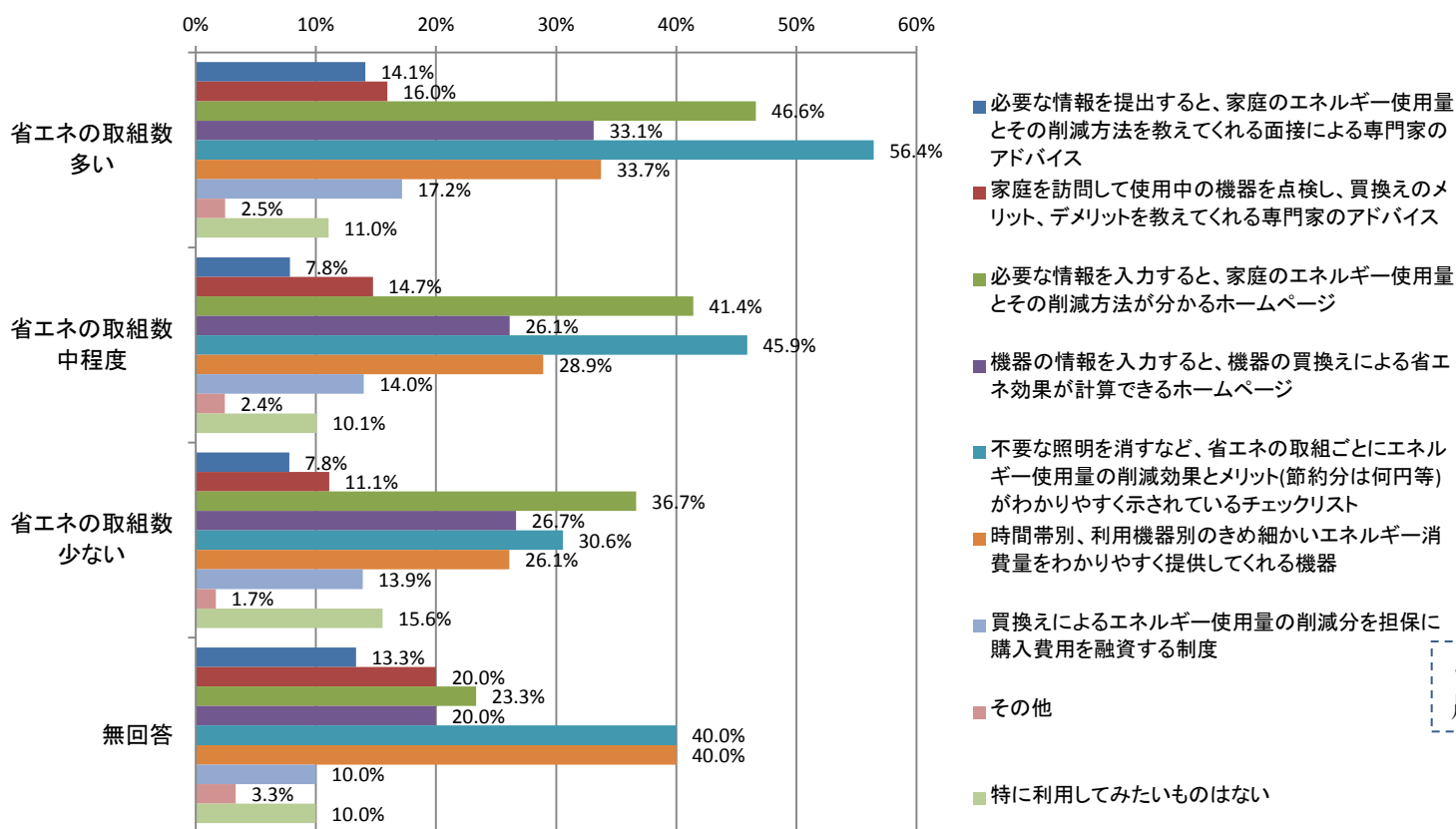
G49: エネルギー使用量の削減のため、利用してみたいサービスや機器(複数回答)n=909



・非接触系のホームページやチェックリストが好評であった。さらに「時間帯別、利用機器別のきめ細かいエネルギー消費量をわかりやすく提供してくれる機器」である「HEMS」も3割は利用してみたいという数字が出た。反対に面接や融資などは敬遠された。

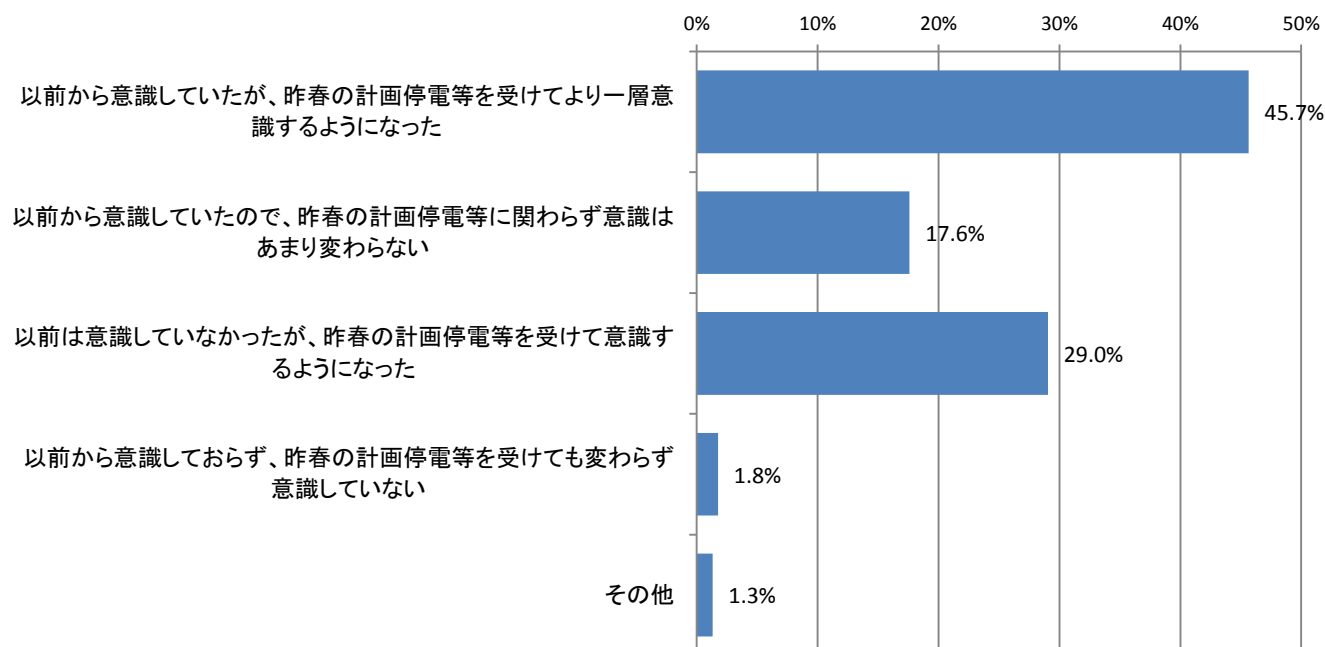
## 【地球温暖化問題やエネルギー使用量に対する考えについて】

G50: 省エネの取組数別の省エネのために利用してみたいサービスと機器 n=909



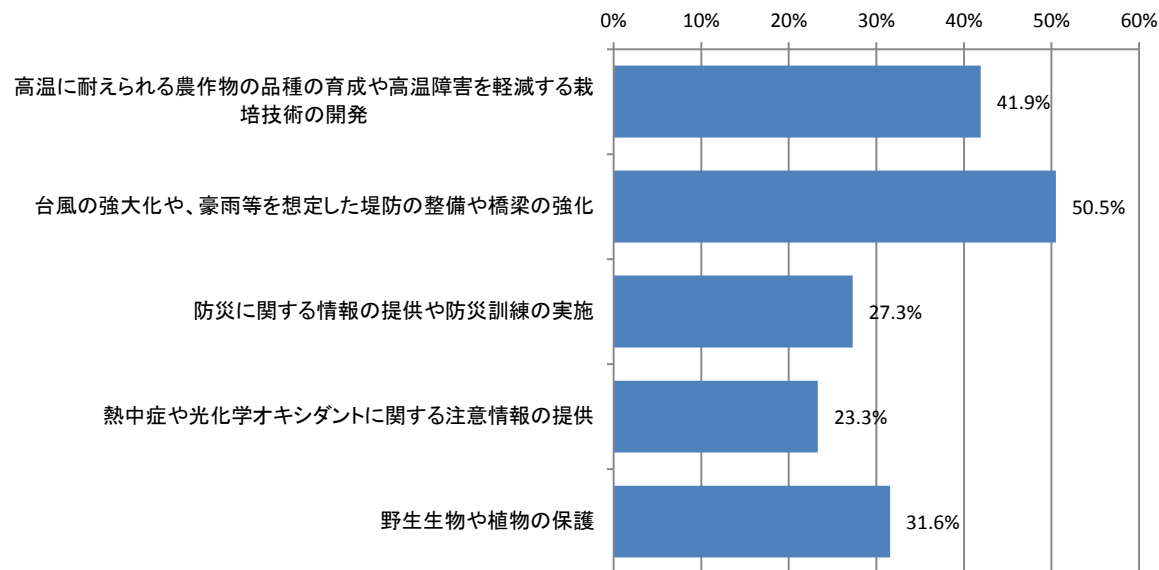
・「エネルギー使用量の削減方法を教えてくれる面接による専門家のアドバイス」と回答した人は、省エネの取組数が多い層で16.0%、取組数が中程度の層で14.7%、取組数が少ない層で11.1%と多い層ほど高かった。  
 ・「特に利用してみたいサービスはない」と回答した人の割合は、省エネの取組数が少ない層の中では15.6%と比較的高かった。

G52: 計画停電等で節電や省エネ意識は変わったか n=909



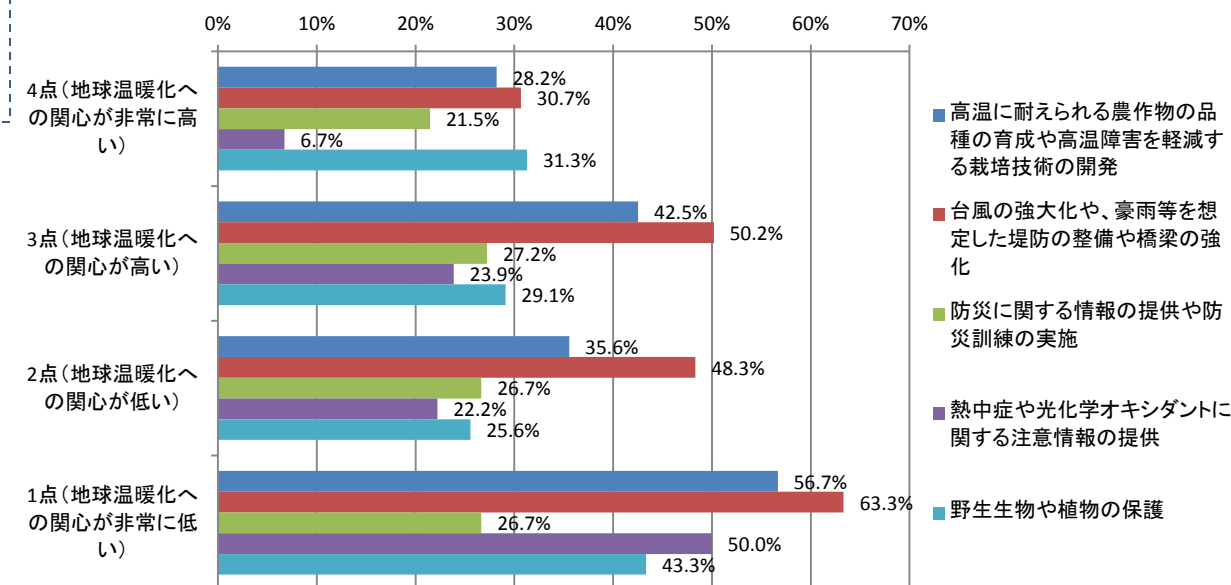
・大きく括ると計画停電等で意識が変わった人は75%、変わらなかった人は19%であった。

G54: 温暖化対策として取り組むべき対策で重要なもの(複数回答) n=909



・最も割合の高い台風や豪雨への対策については、人命に影響する被害であるため理解できるが、農作物の品種改良、野生生物や植物の保護が2位、3位であったことが意外である。

G56: 地球温暖化の関心度別の温暖化対策として取り組むべき重要対策(複数回答) n=909

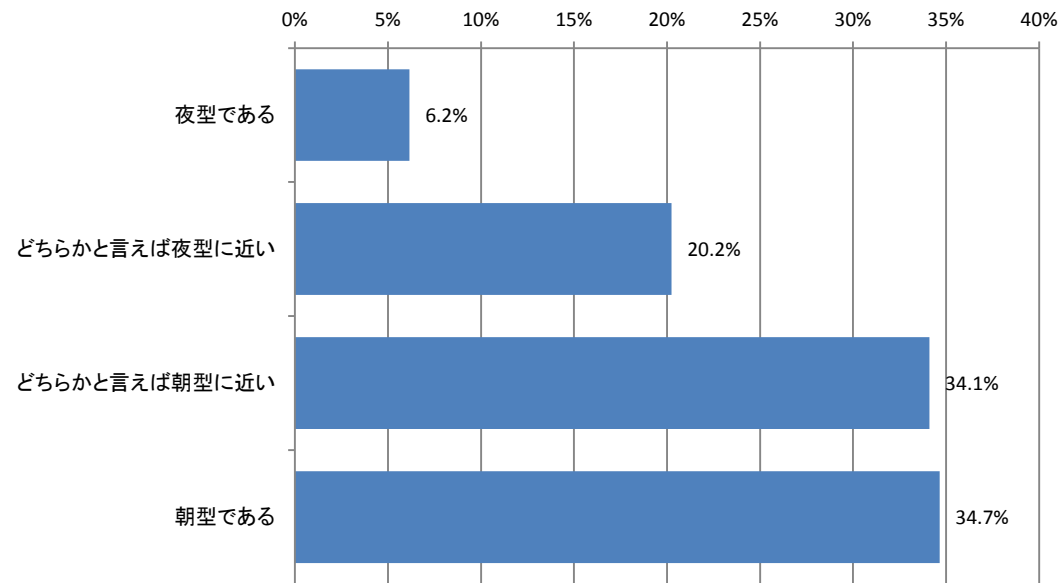


・「台風の強大化や豪雨等を想定した堤防の整備や橋梁の強化」に取り組むべきという割合が全体的に高く、その中でも地球温暖化への関心度が高い人より低い人が高かった。  
 ・「野生生物や植物の保護」は「地球温暖化への関心度が高い」人の中で重要視されており、逆に「熱中症などの注意情報」は、「地球温暖化への関心度が高い」人の中では優先順位が低かった。

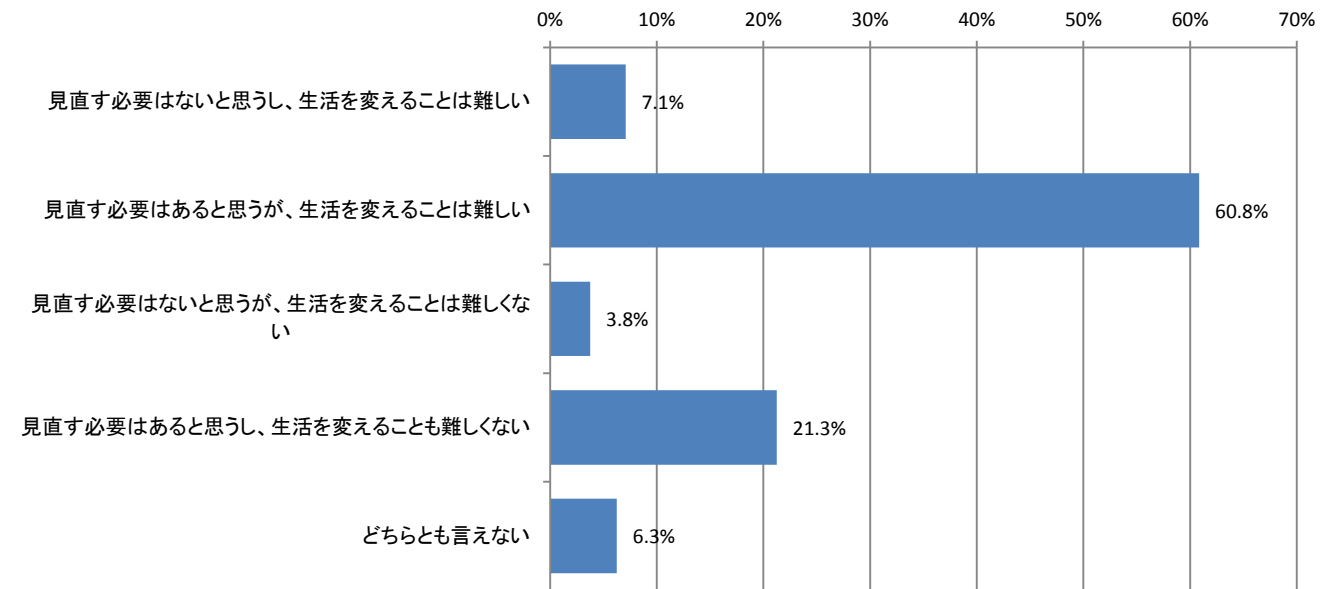


## 【深夜型の生活について】

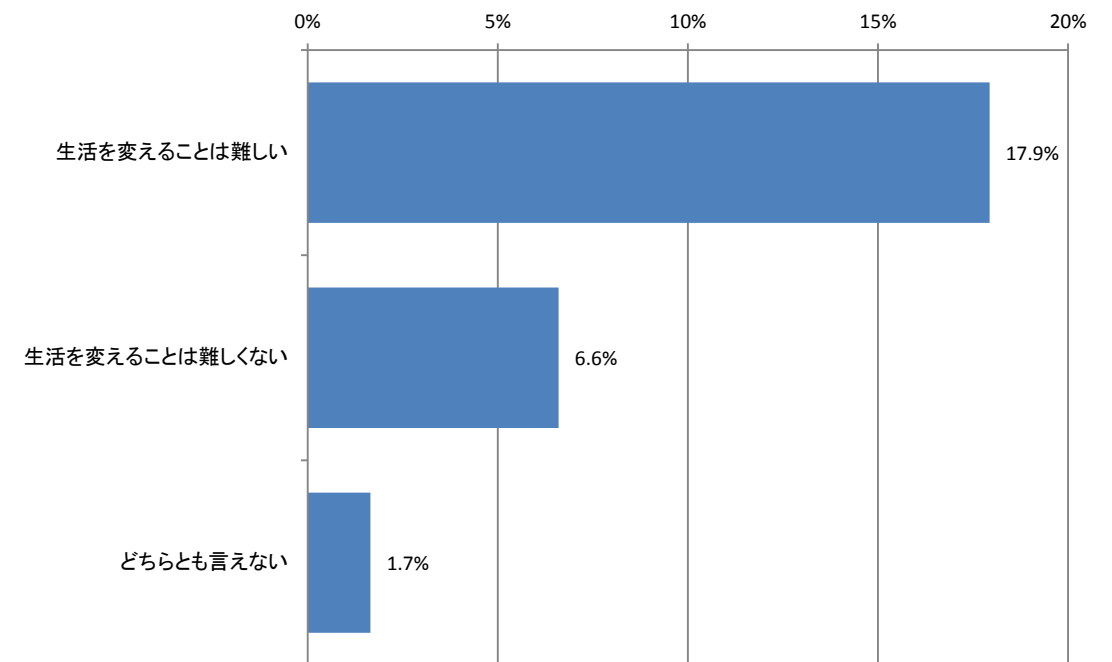
G57: あなたの生活は夜型かn=909



G60: 夜型生活の見直しについての考えn=240(分母:生活が夜型と回答した人)



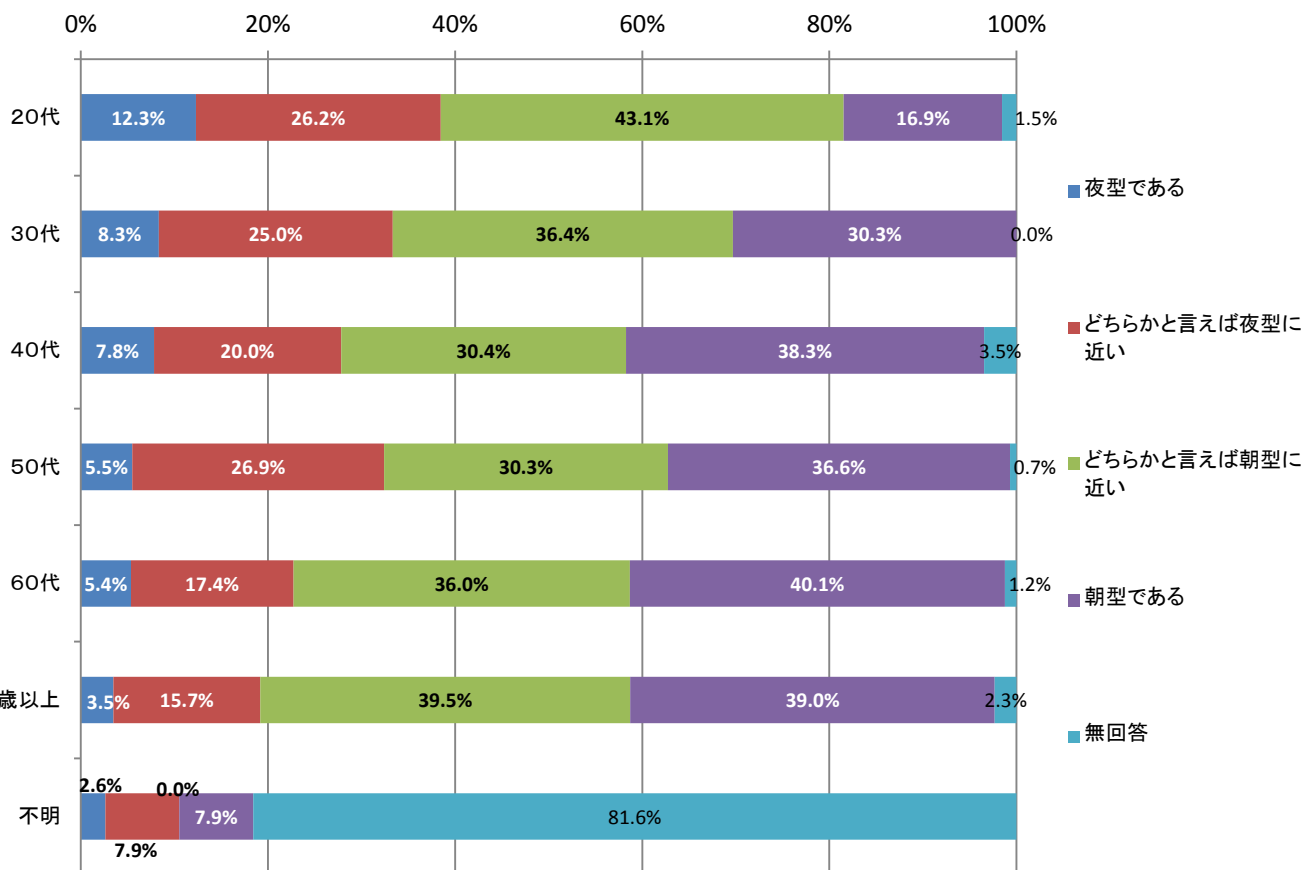
G61: 夜型生活の見直しについての考えn=909(分母:全回答者数)



・G57から全体の26%が夜型の生活をしており、そのうちの7割は生活を変えるのは難しいと答えている。その割合は全体の17.9%に上る。

・「朝型である」と「どちらかと言えば朝型に近い」の回答が約7割であった。反対に「どちらかと言えば夜型に近い」が20.2%、「夜型である」が6.2%で、合計すると26.4%が夜型であると回答した。

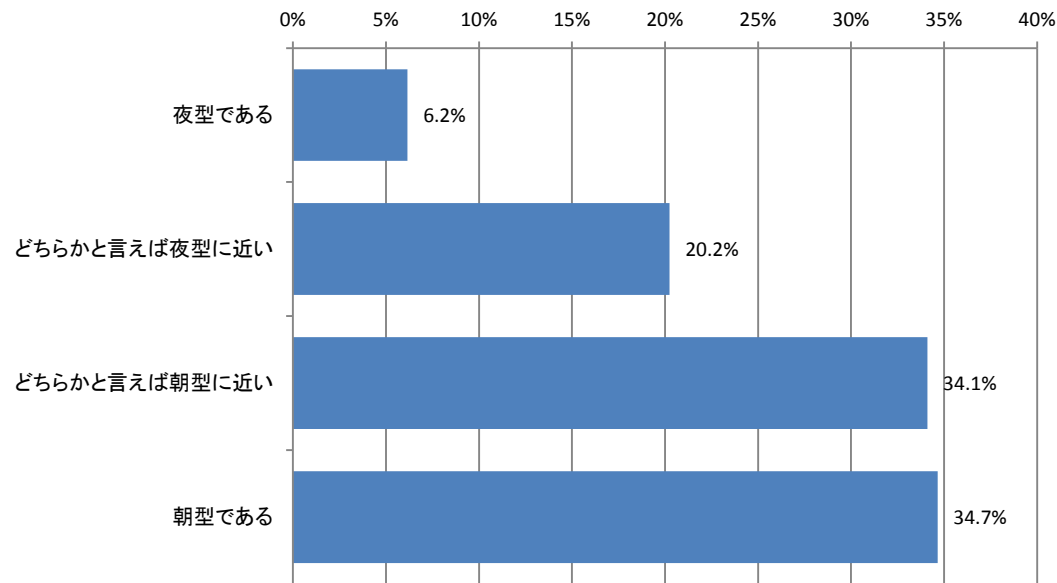
G58: 年代別の夜型・朝型の生活スタイルn=909



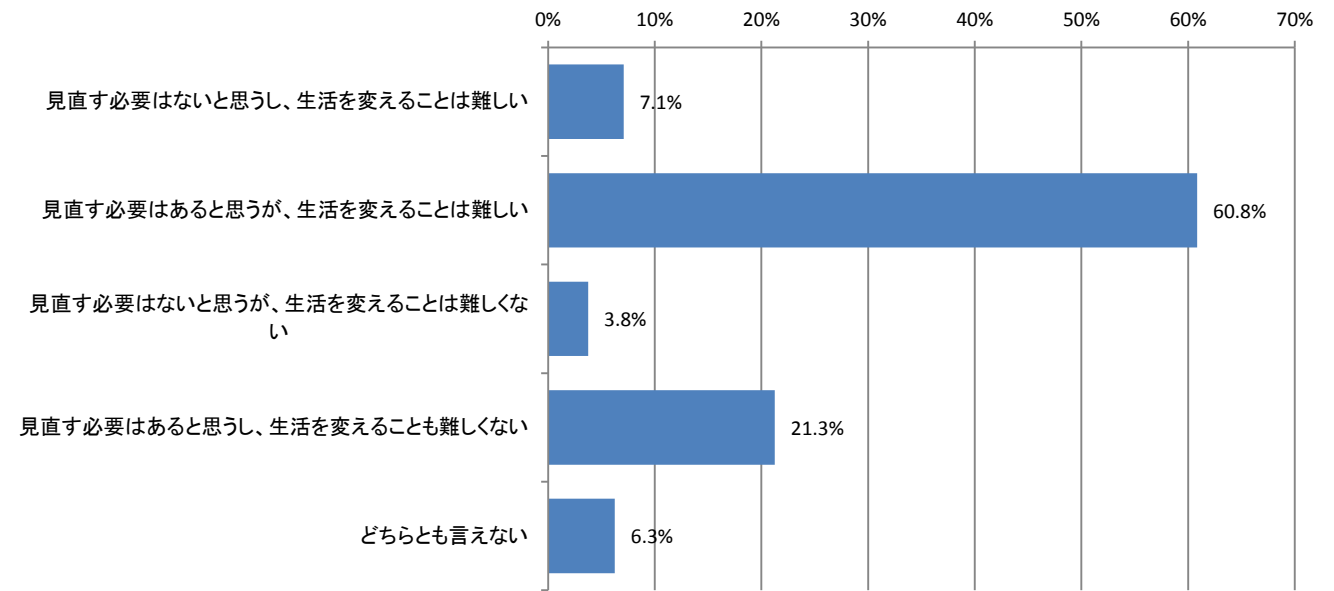
・若い人ほど夜型であることがわかった。特に20代は3人に1人以上が夜型であると回答している。

## 【深夜型の生活について】

G57: あなたの生活は夜型かn=909



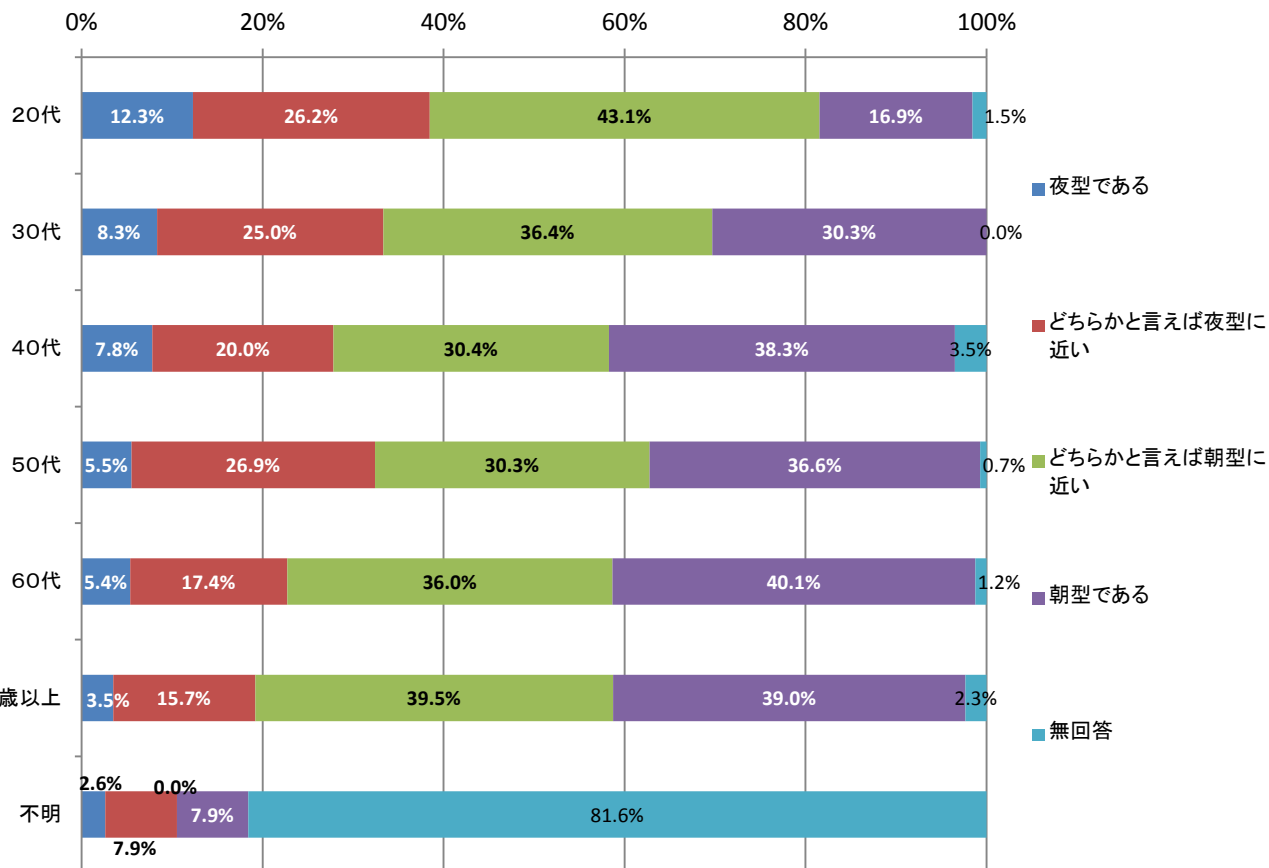
G60: 夜型生活の見直しについての考えn=240(分母:生活が夜型と回答した人)



・G57から全体の26%が夜型の生活をしており、そのうちの7割は生活を変えるのは難しいと答えている。その割合は全体の17.9%に上る。

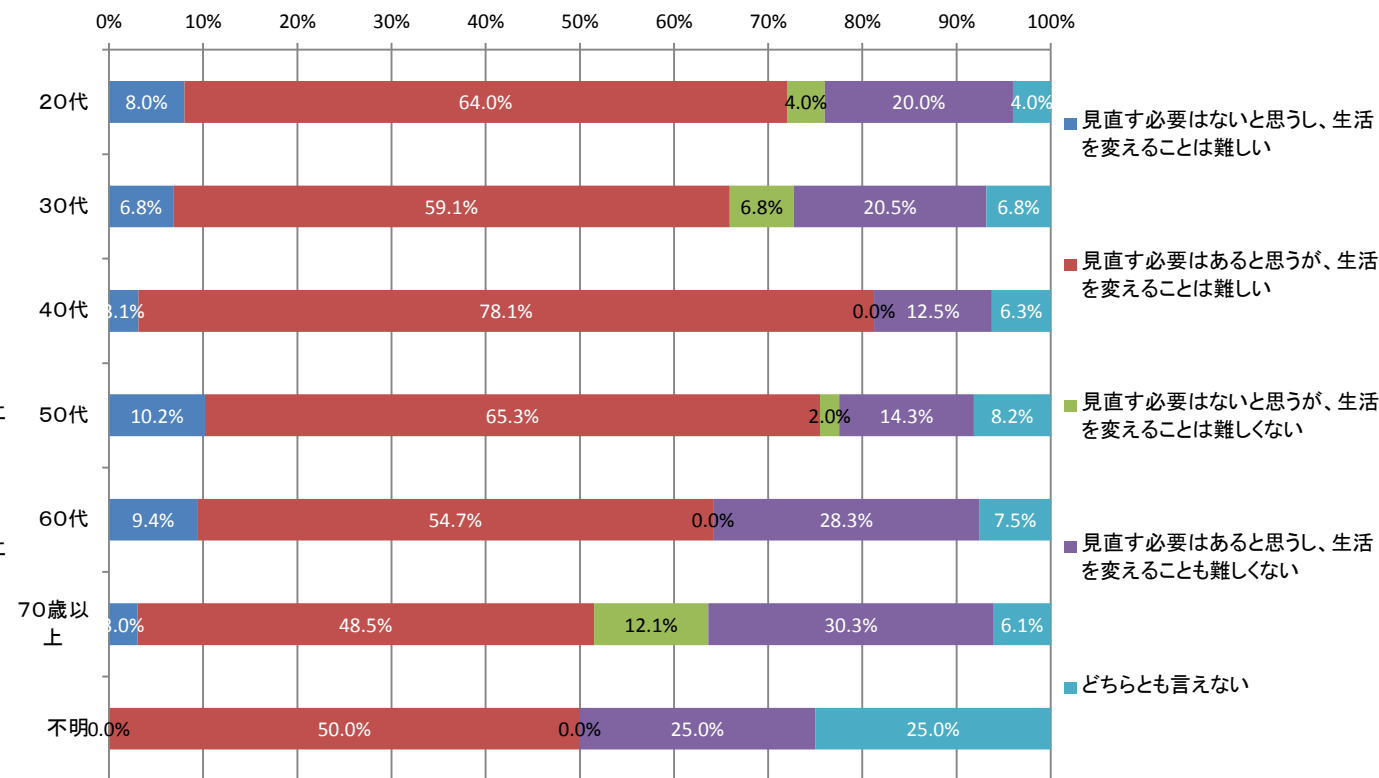
・「朝型である」と「どちらかと言えば朝型に近い」の回答が約7割であった。反対に「どちらかと言えば夜型に近い」が20.2%、「夜型である」が6.2%で、合計すると26.4%が夜型であると回答した。

G58: 年代別の夜型・朝型の生活スタイルn=909



・若い人ほど夜型であることがわかった。特に20代は3人に1人以上が夜型であると回答している。

G61: 年代別の夜型生活の見直しの考えn=240



・生活を変えるのは難しいとしたのは、40～50代が最も多く、仕事上で深夜に行動せざるを得ない状況が見えてきた。  
 ・夜型生活の見直しは、省エネ型のライフスタイルを推進するという面では地球温暖化対策であるが、それ以外にも就業形態などの労働問題、青少年の健全育成、健康増進など幅広い観点から施策を推進すべきと考える。